

臨床工学科 (2 学年)

2024 年度 シラバス目次

科目名	項	科目名	項
英語	2	病院安全管理学	52
臨床生理学	4	呼吸器学	53
臨床生化学	6	循環器学	55
病理学	8	滅菌・消毒学	57
関係法規	10	代謝内分泌系	59
臨床免疫学	13		
臨床薬理学	15		
機械工学	17		
計測工学	19		
システム情報処理	21		
生体物性工学	23		
医工学治療学	27		
臨床支援技術学Ⅱ	29		
呼吸療法装置学	30		
呼吸療法装置学実習	33		
体外循環装置学	35		
体外循環装置学実習	41		
血液浄化療法装置学	45		
血液浄化療法装置学実習	48		
安全管理学	50		

学科・年次	臨床工学科、2年次
科目名	英語
担当者	秋元恵
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教員準備のプリント使用

授業概要と目的
<p>国際的公用語の性格を持つ英語は、医療関連分野の現場においても、実際に使用される機会も増えている。医療活動の場で現在使用される「用語」は、その多くが英語を主体としたものとなっていることから、医療従事者には、英語圏で使用される医学用語の相当な語彙力及び理解力をもつことが要求される。</p> <p>本講義「医療英語」は、この要求に応えるためにも、「医療関係の分野で常用される医学英語用語の基礎的な理解と習得」を目標とし、基本的な用語とその派生語の習得に努めると同時に、医療関係専門分野の英文読解・医療英会話も取り入れ、講義後半からはPCも活用しながらアウトプット力のさらなる高揚も図る。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	医学英語 語彙力・発音力養成を目指す	イントロダクション 人体各部の名称英語 1 を記述することができる 医学関連語彙 1 を列記できる	秋元恵
2	前期	医学英語 語彙力・発音力養成を目指す	人体各部の名称英語 2 医学関連語彙 2 を列記できる 医療英会話 1 を模倣することができる	秋元恵
3	前期	医学英語 語彙力・発音力養成を目指す	人体各部の名称英語 3 医学関連語彙 3 を列記することができる 医療英会話 2 を模倣することができる	秋元恵
4	前期	医学英語 語彙力・発音力養成を目指す	人体各部の名称英語 4 医学関連語彙 3 を列記することができる 医療英会話 3 に参加することができる	秋元恵
5	前期	医学英語 語彙力・発音力養成を目指す 演習問題の理解を深める	人体各部名称英語確認 医療英会話 4 列記することができる 医学英語構造 演習問題を記述することができる	秋元恵
6	前期	医学英語 語彙力・発音力養成を目指す 演習問題の理解を深める	医学英語実例 演習問題 連結形・接尾辞(1-1)：基本的な 名詞接尾辞、(病的)状態を分類することができる	秋元恵
7	前期	医学英語 語彙力・発音力養成を目指す 演習問題の理解を深める	医学英語実例 演習問題 連結形・接尾辞(1-2)：基本的な 名詞接尾辞、(病的)状態を記述することができる	秋元恵
8	前期	医学英語 語彙力・発音力を習得する	医学英語実例 演習問題 連結形・接尾辞(2-1)：人、形容詞	秋元恵

		演習問題の理解を深める	接尾辞、専門外科手術用語、症状、記録、検査他を説明することができる	
9	前期	医学英語 語彙力・発音力を習得する 演習問題の理解を深める	医学英語実例 演習問題 連結形・接尾辞(2-2)：人・形容詞接尾辞・専門外科手術用語・症状・記録・検査他を弁別することができる	秋元恵
10	前期	医学英語：語彙力・発音力養成 / 英語アウトプット力養成を身に付ける	医学英語実例 演習問題 連結形・接尾辞(3)：否定・困難・良好・場所・方向 を説明できる PC活用英語アウトプットを実施できる	秋元恵
11	前期	医学英語：語彙力・発音力養成 / 英語アウトプット力養成を高める	医学英語実例 演習問題 連結形・病名・症状名・既出の連結形と接尾辞による用語・手術名を表す用語・演習 PC活用英語アウトプットを実施できる 臨床工学関連英文 英文読解を調べることができる	秋元恵
12	前期	医学英語：語彙力・発音力養成 / 英語アウトプット力を身に付ける	医学英語実例 演習問題 連結形・心臓・循環器 PC活用英語アウトプットを実施できる 関連英文 英文読解調べることができる	秋元恵
13	前期	医学英語：語彙力・英文読解力 / 英語アウトプット力身に付ける	医学英語実例 演習問題 PC活用英語アウトプット実施できる 関連英文 英文読解を行うことができる	秋元恵
14	前期	医学英語：語彙力・英文読解力 / 英語アウトプット力身に付ける	医学英語実例 演習問題 PC英語アウトプットを実施できる 臨床工学関連英文 英文読解することができる	秋元恵
15	前期	科目試験	まとめ	秋元恵
成績評価方法		<p>期末試験の結果、小テスト、課題達成状況、授業中の取り組み姿勢、出席などを考慮し、総合的に評価します。</p> <p>期末 60% 課題 20% 小テスト 20%</p>		
準備学習など		<p>英和辞書必携です。</p> <p>学習効果を向上させるために、課題を課しますので必ず実行してください。</p>		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科 2 学年
科目名	臨床生理学
担当者	刑部恵介、杉本恵子
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教員作成の講義資料

<p>授業概要と目的</p> <p>"生理機能と疾病の関連またはその検査法などについて学習する。特に生体計測を必要とする心電図、心機図、脳波、呼吸機能および超音波検査など国家試験や臨床現場で必要とする内容を重点的に学習する。なお、臨床検査技師として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p> <p>講義担当：杉本 (心電図、心機図、心エコー、脳波)、刑部 (呼吸機能、超音波の基礎、腹部エコー) "</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	臨床工学技士に必須な呼吸機能検査の基礎的要素を理解する①	呼吸器官の構造と機能および肺気量分画を理解し述べることができる。	刑部恵介
2	前期	臨床工学技士に必須な心電図の基礎的要素を理解する①	臨床工学技士として必要な循環機能検査である心電図について、その波形の成り立ちを理解し述べるができる	杉本恵子
3		臨床工学技士に必須な心電図の基礎的要素を理解する②	臨床工学技士として必要な心電図について、その波形の計測を行い基準範囲と比較することができる。	杉本恵子
4	前期	臨床工学技士に必須な呼吸機能検査の基礎的要素を理解する②	肺容量に関する検査を理解し述べるができる。	刑部恵介
5		臨床工学技士に必須な呼吸機能検査の基礎的要素を理解する③	換気能力に関する検査を理解し述べることができる。	刑部恵介
6	前期	臨床工学技士に必須な心電図の臨床的要素を理解する①	各疾患の波形の成り立ちや異常波形の特徴を述べることができる (波形異常)	杉本恵子
7		臨床工学技士に必須な心電図の臨床的要素を理解する②	各疾患の波形の成り立ちや異常波形の特徴を述べることができる (不整脈)	杉本恵子
8	前期	臨床工学技士に必須な呼吸機能検査の基礎的要素を理解する④	肺拡散能に関する検査を理解し述べることができる。	刑部恵介
9		臨床工学技士に必須な呼吸機能検査の基礎的要素を理解する⑤	血液ガス・酸塩基平衡に関する検査を理解し述べることができる。	刑部恵介
10	前期	臨床工学技士に必須な超音波検査の基礎的要素を理解する	超音波の音響的特性などを理解し述べることができる。	刑部恵介
11		臨床工学技士に必須な腹部エコー検査の基礎的要素を理解する	腹部エコーの基礎的な断面と心腔内構造を理解し画像の特徴を述べることができる	刑部恵介
12	前期	臨床工学技士に必須な心電図の臨床的要素を理解する③	各疾患の波形の成り立ちや異常波形の特徴を述べることができる (虚血性心疾患)	杉本恵子
13		臨床工学技士に必須な心エコー図の基礎的要素を理解する	心エコー図の基礎的な断面と心腔内構造を理解し画像の特徴を述べることができる	杉本恵子

14	前期	臨床工学技士に必須な脳波像の基礎的要素を理解する	脳波波形の基礎的要素を理解し述べることができる。	杉本恵子
15		期末試験、まとめ		杉本恵子
成績評価方法		講義で使用した資料を元に出題する。刑部恵介先生が担当する臨床生理学と合わせて 100 点として評価する（配分は 50 点ずつ）。		
準備学習など		配布された講義資料を事前に 10 分ほど読んでおくこと。また講義後は 20 分ほどの復習の時間を確保すること。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科・2学年
科目名	臨床生化学
担当者	竹内 章夫
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能2 生化学 畠山鎮次 医学書院

授業概要と目的
我々は生命・身体の維持と成長のために、種々の栄養素を取り入れ、代謝し、不要なものを排泄する動的平衡状態にある。この生きるということを支えている生体構成物質とエネルギー産生について、分子レベルでの性質や役割を学び、さらにそれらの代謝過程と異常（病気）について理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	糖質とはどのようなものか理解する。	糖の分類と、それぞれに属する糖の名前を記憶し、糖質の性質と役割を述べるができる。	竹内章夫
2		脂質とはどのようなものか理解する。	脂質の分類と、それぞれに属する物質の名前を記憶し、脂質の性質と生理的役割を述べるができる。	竹内章夫
3	後期	タンパク質とはどのようなものか理解する。	タンパク質の分類と代表的なタンパク質の名前と役割を記憶する。また、アミノ酸について理解し、それから構成されるタンパク質の立体構造および特性を理解し述べるができる。	竹内章夫
4		核酸とはどのようなものか理解する。	核酸の種類と構成する物質を記憶し理解する。また、DNAの構造と重要性を理解し、簡単にタンパク質合成について述べるができる。	竹内章夫
5	後期	水と無機質について理解する。	水の必要性と体への出入りについて理解する。無機質については、生体内濃度とその役割を理解する。	竹内章夫
6		酵素とはどのようなものか理解する。	生体触媒である酵素の特性と反応メカニズムを知り、生体における重要性と役割を理解する。また、医学的な分野における応用について理解する。	竹内章夫
7	後期	血糖を維持し、エネルギー産生の主要経路である糖質代謝について理解する。	グルコースが酸化分解される経路を知り、酵素の有無による代謝の違いを理解する。さらに、糖を完全分解するクエン酸回路の役割を理解し、エネルギー産生における重要性を述べるができる。	竹内章夫
8		血糖を維持し、エネルギー産生の主要経路である糖質代謝について	電子伝達系の内容と、主要なATP産生経路であることを理解する。また、血糖維持	竹内章夫

		て理解する。	に働くグリコーゲンの役割と、糖新生について知り、ホルモンによる血糖値の維持について述べることができる。	
9	後期	脂肪酸とコレステロールの合成分解を行う脂質代謝について理解する。	中性脂肪を構成する脂肪酸の合成分解によるエネルギー消費産生過程を理解する。また、コレステロールの合成分解過程を理解し、生体内の脂質の移動を述べることができる。	竹内章夫
10		体内アミノ酸の利用についてのタンパク質アミノ酸代謝を理解する。	窒素代謝によるアンモニアの処理過程と、炭素骨格代謝によるエネルギー産生と血糖供給を理解し、生体物質の合成材料を含めたアミノ酸の使われ方を述べることができる。	竹内章夫
11	後期	ビタミンの役割と欠乏症を理解する。	ビタミンの名称と作用点、およびそれぞれの欠乏症を関連付けて述べることができる。	竹内章夫
12		ホルモンの産生臓器と働きを理解する。	ホルモンの種類と産生臓器を記憶し、さらに、作用機序を理解する。血糖・カルシウムについて調節するホルモンを述べることができる。	竹内章夫
13	後期	代謝の異常によって引き起こされる代謝病について理解する。	骨粗鬆症・糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症について、分子レベルでの異常を理解しその原因を述べることができる。	竹内章夫
14		遺伝子レベルの異常による疾病を理解する。	DNAの配列異常による先天性代謝異常、配列異常の蓄積による癌の発症について理解し述べることができる。	竹内章夫
15	後期	期末試験、まとめ		竹内章夫
成績評価方法		最後の講義時間に、国家試験に準じた筆記試験を行い評価する。		
準備学習など		講義前には教科書に目を通し、講義後は物質名やその分類を整理して役割とともに記憶する。代謝に関しては大まかな流れとその意義を理解する。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科・2年次
科目名	病理学
担当者	佐藤恵美子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	臨床工学技士標準テキスト第4版（金原出版）

<p>授業概要と目的</p> <p>病気は細胞・組織・臓器の変化（異常）から発生する。病理学の講義では、人体構造機能学、生化学、微生物学、遺伝学などの基礎知識を元にして、病気の原因、経過、結果などを学び、病気の本態を理解することを目的とする。病理学は組織・臓器に普遍的に生じる基本病変を論じる総論と臓器別の病変を論じる各論に分けられるが、本講義では病理学総論を学習する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	医学・医療における病理学の意義を理解する。	病理検査、病理解剖のビデオを鑑賞して医学・医療における病理学の意義を理解し、その重要性を述べることができる。	佐藤恵美子
2		病因について理解する。	内因と外因を説明できる。	
3	後期	細胞傷害の機序とその反応を理解する。①	変性、萎縮、肥大と過形成、化生について説明し、それらによる疾患を列挙できる。壊死とアポトーシスの違いを説明できる。	佐藤恵美子
4		細胞傷害の機序とその反応を理解する。②	組織の再生について述べることができる。創傷治癒の一次治癒と二次治癒について説明し、その治癒過程を述べることができる。	佐藤恵美子
5		代謝障害について理解する。	タンパク質代謝障害、脂質代謝障害、糖代謝障害、尿酸代謝障害、ビリルビン代謝障害の病態を理解し、それぞれの疾患の特徴を述べることができる。	佐藤恵美子
6	後期	循環障害について理解する。①	虚血、充血、うっ血、出血、浮腫の病態を理解し、それぞれの疾患の特徴を述べることができる。	佐藤恵美子
7		循環障害について理解する。②	血栓症、塞栓症、梗塞、側副循環、ショック、高血圧の病態を理解し、それぞれの疾患の特徴を述べることができる。	佐藤恵美子
8	後期	炎症について理解する。	炎症の5徴候、急性炎症と慢性炎症の違いを述べることができる。滲出性炎、増殖性炎、肉芽腫性炎について説明し、それぞれの疾患を列挙できる。	佐藤恵美子
9		感染症について理解する。	感染防御機構について説明できる。病原体の種類と疾患を列挙できる。	佐藤恵美子
9	後期	免疫異常について理解する。①	免疫の基礎を理解し、免疫に関連する疾患（アレルギー、免疫不全）の病態について述べるができる。	佐藤恵美子

10		免疫異常について理解する。② 腫瘍について理解する。①	免疫に関連する疾患（自己免疫疾患）の病態について述べることができる。 腫瘍の定義、腫瘍の分類を述べることができる。	佐藤恵美子
11	後期	腫瘍について理解する。②	良性腫瘍と悪性腫瘍の相違点、悪性腫瘍の特徴を説明できる。 リンパ行性転移、血行性転移、播種を説明できる。TNM分類について説明できる。	佐藤恵美子
12		腫瘍について理解する。③	腫瘍の発生機序、すなわち癌遺伝子、癌抑制遺伝子、物理的因子、化学的因子、生物学的因子について説明できる。	佐藤恵美子
13	後期	先天異常について理解する。	奇形について説明できる。 染色体異常の疾患を列挙し、その特徴を述べることができる。 遺伝子異常の分類と疾患を列挙できる。	佐藤恵美子
14		まとめ		佐藤恵美子
15	後期	まとめ、科目試験		佐藤恵美子
成績評価方法		テスト 100%		
準備学習など		人体の正常な構造、機能についての基礎知識を復習し、理解しておくこと		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	関係法規
担当者	梁川 美子
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	臨床工学講座 関係法規 医歯薬出版株式会社

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床工学技士の基本法である、臨床工学技士法をはじめ、臨床工学技士として働く時に関わる法律の主なものを解説し、将来の臨床現場において適切な判断のもと業務を遂行することに役立てる。医療の領域や内容、各資格の業務について、法律に基づいた判断ができるようになることを目的とする。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	<p>「法規とは」</p> <p>法規及び成文法の基本を理解する。</p> <p>「社会保障に関する法規及び、健康増進法、臓器移植法」</p> <p>社会保障に関する法律には何があるかを知り、その概要を理解する。</p> <p>健康予防や臓器移植についての法律の概要及びその意義を理解する。</p>	<p>法規の種類及びその効力の順について答えられる。</p> <p>成文法の構成を知り、法律、政令、省令の条文の読みとりができる。</p> <p>各種社会保障法の種類を答えられ、簡単な概要を説明できる。(特に医療保険)</p> <p>健康増進法の目的を答えることができ、定義されている内容を3つ以上答えられる。</p> <p>臓器移植法による、移植できる臓器（脳死後、心停止後）が答えられる。</p> <p>臓器移植法による臓器提供に関する意思表示方法を答えることができる。</p>	梁川美子
2	後期	<p>「医療法とは」</p> <p>医療法の目的を理解する。</p> <p>医療法に定義されている、病床の種類及び医療施設の種類を知り、各施設基準を理解する。</p>	<p>医療法の目的と医療法で規定されている項目を挙げるができる。</p> <p>病床の種類とその定義を説明できる。</p> <p>医療施設の種類（診療所、病院等）ならびに各医療施設に設けられている施設基準の特徴を答えることができる。</p>	梁川美子
3	後期	<p>「医薬品医療機器等法（特に医療機器関連部）」</p> <p>医薬品医療機器等法の目的を理解する。</p> <p>医薬品医療機器等法に定義されている項目について理解する。</p>	<p>医薬品医療機器等法の目的と規定されている項目を挙げるができる、その定義を説明することができる。</p> <p>特に医療機器について、法律上の分類方法と国際基準によるクラス分類の相関を答えることができる。</p> <p>実際の医療機器を法律上の分類及びクラス分類に分類することができる。</p>	梁川美子
4	後期	<p>「資格に関する法律関連用語」</p> <p>資格法に共通する法律用語や定義を理解する。</p>	<p>各医療資格法に共通する用語について（免許要件、欠格自由、守秘義務、名称独占、業務独占等）を説明することができる。</p>	梁川美子

		<p>「臨床工学技士法」 定義されている項目を理解する。 臨床工学技士の免許に係る要綱を理解する。 臨床工学技士の業務について詳細に理解する。 規定と罰則について理解する。</p>	<p>臨床工学技士法の目的と臨床工学技士の理念を説明することができる。 臨床工学技士の定義を述べることができる。 生命維持管理装置の定義を述べることができる。 臨床工学技士の受験要綱等、免許要件を説明することができる。 臨床工学技士の業務に係る規定を説明することができる。(特定行為の制限等) 守秘義務や名称独占を説明することができる。</p>	
5	後期	<p>「臨床工学技士業務指針」 臨床工学技士の業務指針に記載されている内容を知り、可能な業務範囲や手技等を詳細に理解する。 「医療安全管理に対する法規(特に医療機器安全管理について)」 医療安全についての規定を知り、安全に対する意識を高める。特に医療機器安全管理について理解する。</p>	<p>臨床工学技士としてチーム医療での役割を説明することができる。 臨床工学技士の各業務に対して、法令上の特定行為を挙げることができ、また具体的に可能な業務範囲及び手技を述べることができる。 医療法における、医療安全管理体制及びその管理の確保について説明できる。 医療機器に係る安全管理のための体制確保に必要な措置を述べることができる。 医療機器安全管理責任者の資格基準とその管理内容を説明することができる。 研修や保守点検が必要な医療機器をすべて述べることができる。</p>	梁川美子
6	後期	<p>「医療機器の立会い基準」 立会いの定義と規制を理解することができる。 「個人情報保護に係る法律」 個人情報の定義を知り、第三者提供と本人の同意の位置づけを理解する。 医療現場での個人情報の特殊性と利用目的、患者への掲示について理解する 個人情報と守秘義務の関係を理解する。</p>	<p>立会いの定義を説明することができ、その基準が必要となった背景を述べることができる。 立会いの基準と制限回数・期間を説明することができる。 個人情報として扱われるものについて、判断することができる。 本人の同意を得て情報提供できる事例を説明することができる。 医療現場での個人情報の利用目的の代表的な事例を述べることができる。 刑法に守秘義務規定が置かれている医療資格を答えることができる。</p>	梁川美子
7	後期	<p>「医療訴訟に関する法律」 医療事故、医療過誤の違いを理解する。 法的責任が発生した際の罰則の種類を知る。 対人トラブルによる訴訟の事例を知る。 「PL法」 PL法の概要と臨床工学技士の関</p>	<p>医療事故、医療過誤の違いを説明することができる。 刑法・民法・行政上の処分の法的責任について説明することができる。 臨床工学技士として法律に反する事例を挙げながら、臨床工学技士としての役割や法的責任を考えることができる。 PL法の概要を説明することができる。 製造業者の責任と医療従事者の責任の違い</p>	梁川美子

		りを理解する。 「廃棄物処理法」 廃棄物の種類や医療廃棄物の分類を知り、各廃棄物の処理方法を理解する。	を判断できる。 廃棄物の分類ができる。 感染性廃棄物の分類と廃棄物の処理に関する規定を説明することができる。	
8	後期	まとめ、科目終了試験	医療に関する各法規の目的や概要を説明することができ、医療関連法規をもとに臨床工学技士としての適切な理解や判断ができる。	梁川美子
成績評価方法		科目修了試験 授業態度（科目修了試験得点に加算及び減算を行う場合がある）		
準備学習など		単元ごとに「まとめ確認プリント」配布。各自プリントの問題を行うことで復習をすること。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科・2年次
科目名	臨床免疫学
担当者	佐藤恵美子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	臨床工学技士標準テキスト第4版（金原出版）

授業概要と目的	
<p>生体防御機構である免疫の基本概念を理解するとともに、免疫が関与した種々の疾患について学習する。 さらに、免疫反応を利用した臨床検査法についても学習する。</p> <p>（1）免疫の基礎：自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫、免疫担当細胞、サイトカイン、感染症 （2）免疫と疾患：アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植免疫、腫瘍免疫 （3）免疫反応の利用：臨床検査法</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	生体防御としての免疫反応の概要を理解する。	自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫、受動免疫と能動免疫について説明できる。	佐藤恵美子
2		リンパ組織、免疫担当細胞について理解する。	リンパ組織および免疫担当細胞を列挙し、その機能を述べることができる。	
3	後期	自然免疫およびサイトカインについて理解する。	自然免疫の特徴を理解し、それに関わる液性因子や細胞の役割を述べるができる。 代表的なサイトカインを列挙し、その役割を述べることができる。	佐藤恵美子
4		獲得免疫における主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) の役割を理解する。	獲得免疫における MHC クラス I、クラス II の重要性を理解し、発現する細胞やその役割を述べることができる。	
5	後期	液性免疫と細胞性免疫について理解する。	抗体の種類を列挙し、それぞれの特徴、機能を述べることができる。 細胞性免疫に関わる細胞の役割について述べるができる。	佐藤恵美子
6		感染症について理解する。①	感染の成立について説明できる。 感染経路を説明し、それぞれの経路による疾患を列挙できる。	
7	後期	感染症について理解する。②	病原体の分類とその特徴を説明し、それぞれの疾患を列挙できる。	佐藤恵美子
8		免疫の基礎のまとめ①	今まで学んできた「免疫の基礎」の知識を応用し、ウイルス感染における免疫反応を図示し、説明できる。	
		免疫の基礎のまとめ②	今まで学んできた「免疫の基礎」の知識を応用し、細菌感染における免疫反応を図示し、説明できる。	

9	後期	自己免疫疾患について理解する。	全身性自己免疫疾患および臓器特異的自己免疫疾患の疾患を列挙し、それぞれの病態について述べることができる。	佐藤恵美子
10		アレルギーについて理解する。	I型～IV型アレルギーの特徴を説明し、それぞれの疾患を列挙できる。	佐藤恵美子
11	後期	免疫不全について理解する。	先天性免疫不全と後天性免疫不全の疾患を列挙し、その病態を述べるができる。	佐藤恵美子
12		腫瘍免疫について理解する。	腫瘍免疫の特徴を理解し、腫瘍の免疫療法について述べるができる。	佐藤恵美子
		移植免疫について理解する。	移植免疫における HLA の意義を理解し、拒絶反応や GVHD について説明できる。	佐藤恵美子
		血液型と輸血について理解する。	ABO 血液型、Rh 血液型について理解し、それらの判定法を説明できる。さらに輸血の際の検査法を述べるができる。	佐藤恵美子
13	後期	免疫反応を利用した臨床検査法について理解する。	液性免疫や細胞性免疫を利用した種々の臨床検査法の特徴を述べることができる。	佐藤恵美子
14		まとめ		佐藤恵美子
15	後期	まとめ 科目試験		佐藤恵美子
成績評価方法		テスト 100%		
準備学習など		種々の免疫反応について興味や疑問を持ち、講義の中でそれらを理解し、解決できるようにすること。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科 ・2年次
科目名	臨床薬理学
担当者	藤田 孝子
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	わかりやすい薬理学

<p>授業概要と目的</p> <p>医療従事者として医薬品にたいする薬理知識の習得を目標とする。</p> <p>まず、総論で、薬理学の概要を、薬物動態を通して学習する。各論では、それぞれの疾患に対しての薬物の薬理作用と、その副作用を学習する。なお、薬剤師として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業 項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	薬理学の総論を理解する	薬力学と薬物動態学の違いを理解する	藤田孝子
2	前期	薬物の薬理作用と作用機序を理解する	受容体の機序を通して、薬物の作用を理解させる。	藤田孝子
3	前期	薬物動態学を理解する①	薬物動態学を学習して、薬物の経路とその特徴を理解する。	藤田孝子
4	前期	薬物動態学を理解する。②	小児・高齢者・妊婦の薬物療法のより安全性を理解する。	藤田孝子
5	前期	医薬品の管理について理解する。	医薬品を扱うときに必要な法律を学び、薬物療法を行う際の安全性と有効性の理解をふかめる。	藤田孝子
6	前期	以下、各論、神経のしくみを学び自律神経作用薬を理解する①	交感神経系作用薬、および抗交感神経系の薬理作用を学ぶ	藤田孝子
7	前期	自律神経作用薬を理解する②	副交感神経系作用薬、および抗交感神経系薬理作用薬を学ぶ。	藤田孝子
8	前期	体制神経作用薬を理解する①	筋肉弛緩薬、局所麻酔薬を学ぶ。	藤田孝子
9	前期	中枢神経系作用薬を理解する①	全身麻酔薬、催眠薬、向精神薬の薬理作用とその症状について学ぶ	藤田孝子
10	前期	中枢神経系作用薬を理解する②	麻薬鎮痛薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン症候群薬理作用とその症状、副作用を学ぶ。	藤田孝子
11	前期	循環器系作用薬を理解する①	高血圧、心不全、狭心症、不整脈の病態生理と薬物治療の薬理作用、副作用を学ぶ。	藤田孝子

12	前期	輸液製剤・腎臓作用薬を理解する。	利尿薬を中心にその機序とその薬理作用、副作用を学ぶ。	藤田孝子
13	前期	呼吸器系作用薬、消化器系、ホルモン系製剤理解する。	喘息治療薬、胃潰瘍治療薬、糖尿病治療の薬理作用、ステロイド薬について学ぶ。	藤田孝子
14	前期	抗菌薬、抗癌剤、消毒薬、ビタミン剤について理解する。	感染症を理解して、その治療薬をまなぶ。抗癌剤の作用とその副作用を学ぶ。	藤田孝子
15	前期	期末テスト、まとめ		藤田孝子
成績評価方法		試験、平常点（プリント作成含めて算出します。）		
準備学習など		プリントをしっかりと復習すること		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科・2 学年
科目名	機械工学
担当者	兼重明宏
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	臨床工学講座 医用機械工学(島津秀昭、馬淵清資著 医歯薬出版株式会社)

授業概要と目的
<p>臨床工学に必要な機械工学の基礎となる物理学に重点を置き、力学、材料力学、流体力学、波動と熱力学に関して、下記の項目を学び、臨床工学技士に必要な機械工学の知識を習得することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 力学の基礎 (1)(2)力の定義、表し方(3)(4)剛体に働く力とつり合い(5)(6)(7)力と運動(8)エネルギーと仕事(9)振動 2. 材料力学の基礎 (1)弾性と塑性(2)応力と歪み(3)安全率と梁の強さ 3. 流体力学の基礎 (1)圧力(2)静止流体(3)流体運動 4. 波動 (1)波の基礎(2)波の反射、透過と屈折(3)音波と超音波(4)音波の伝搬 5. 熱と熱力学の基礎 (1)熱、温度、比熱と熱容量(2)熱の伝道、(3)温度と相の変化(4)熱膨張、熱と仕事

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	医用機械工学と力学の関係について理解する。	医療と機械工学との関係、力学で用いる単位、運動の法則を説明できる。	兼重明宏
2	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(1)	力の表し方、力の合成と分解を求めることができる。	兼重明宏
3	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(2)	力のつりあいから物体に働く力を求めることができる。	兼重明宏
4	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(3)	剛体に働く力とモーメントを求めることができる。	兼重明宏
5	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(4)	モーメントの計算により剛体のつり合いを説明できる。重心を求めることができる。	兼重明宏
6	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(5)	物体の等速運動や等加速度を説明できる。	兼重明宏
7	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(6)	物体の放物運動や円運動を説明できる。	兼重明宏
8	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(7)	物体に働く力と運動について理解し、運動方程式を求めることができる。	兼重明宏
9	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(8)	力のする仕事と力学的エネルギーについて説明できる。	兼重明宏
10	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(9)	物体に働く力と振動の関係を説明できる。	兼重明宏
11	通年	力学の基礎として、物体に働く力と運動の関係を理解する。(10)	演習問題を通して物体に働く力と運動を理解する。	兼重明宏
12	通年	材料力学の基礎として、固体材料の変形と強度を理解する。(1)	固体材料の弾性と塑性を理解し、その変形と強度を説明できる。	兼重明宏
13	通年	材料力学の基礎として、固体材料の変形と強度を理解する。(2)	物体に生じる応力、歪の関係を理解し、材料に生じる歪を求めることができる。	兼重明宏

14	通年	材料力学の基礎として、固体材料の変形と強度を理解する。(3)	安全率と梁の強さについて説明できる。	兼重明宏
15	通年	力学、材料力学の基礎を理解する。(1)	演習問題を通して、力学及び材料力学の基礎を理解する。	兼重明宏
16	通年	力学、材料力学の基礎を理解する。(2)	中間試験とまとめで、力学及び材料力学の基礎を理解する。	兼重明宏
17	通年	流体力学の基礎を理解する。(1)	圧力の単位変換ができる。静止流体中の圧力が計算できる。	兼重明宏
18	通年	流体力学の基礎を理解する。(2)	連続の式、ベルヌーイの定理を用い、運動が説明できる。	兼重明宏
19	通年	流体力学の基礎を理解する。(3)	層流と乱流、レイノルズ数、ハーゲン・ポアズイユの法則が説明できる。	兼重明宏
20	通年	波動の基礎を理解する。(1)	波の性質を理解し、また、正弦波について説明できる。	兼重明宏
21	通年	波動の基礎を理解する。(2)	波の反射、透過と屈折について説明できる。	兼重明宏
22	通年	波動の基礎を理解する。(3)	音波、超音波について説明できる。	兼重明宏
23	通年	波動の基礎を理解する。(4)	ドップラー効果について説明できる。	兼重明宏
24	通年	熱力学の基礎を理解する。(1)	セ氏温度と絶対温度、比熱と熱容量と熱量について説明できる。	兼重明宏
25	通年	熱力学の基礎を理解する。(2)	熱の移動について説明できる。理想気体の法則について説明できる。	兼重明宏
26	通年	熱力学の基礎を理解する。(3)	熱量保存の法則と相変化に伴う潜熱について説明できる。熱膨張を求められる。	兼重明宏
27	通年	熱力学の基礎を理解する。(4)	熱力学の法則、気体のする仕事、熱機関について説明できる。	兼重明宏
28	通年	流体力学、波動及び熱力学の基礎を理解する。(1)	演習問題を通して、流体力学、波動及び熱力学の基礎を理解する。	兼重明宏
29	通年	流体力学、波動及び熱力学の基礎を理解する。(2)	演習問題を通して、流体力学、波動及び熱力学の基礎を理解する。	兼重明宏
30	通年	まとめ、科目終了試験	科目終了試験とまとめで、機械工学における力学の基礎を理解する。	兼重明宏
成績評価方法		課題、小テスト、中間試験、科目終了試験で評価を行う。		
準備学習など		復習課題と小テストによって理解度の確認を行う。		

学科・年次	臨床工学科・2年次
科目名	計測工学
担当者	坂倉守昭
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	高校数学でマスターする 計測工学 コロナ社

授業概要と目的	
<p>本科目は生体計測への応用を意識しながら計測の基本的な事項を学習することを目的とする。物理量の計測では測定した量の単位・次元が非常に重要であるので、最初にそれらについての理解を深める。次に、計測量の数学的取扱い方を学んで正しい結果を導く手法を学ぶ。さらに、計測によく使われるセンサおよび電子回路についても学習する。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者																																
1	前期	国際単位系 (SI 単位) SI 基本単位	SI 基本単位の定義を説明できる。 SI 基本単位と SI 組立単位の違いを説明できる。	坂倉守昭																																
2					3	前期	SI 組立単位 非 SI 単位 単位の次元	主要な SI 組立単位の定義を説明できる。主要な非 SI 単位の定義を説明できる。	坂倉守昭	4	5	前期	測定の種類 (直接測定、間接測定) と方法 (偏位法、零位法、置換法)、誤差の定義と評価、誤差の種類、トレーサビリティ	測定の種類と方法を説明できる。測定誤差の定義と評価について説明できる。測定誤差の種類を挙げて説明できる。	坂倉守昭	6	7	前期	有効数字、計算誤差 (桁落ち誤差、打ち切り誤差、情報落ち誤差、丸め誤差)	有効数字および有効桁数を例を挙げて説明できる。有効数字を考慮した四則演算ができる。計算誤差を説明できる。	坂倉守昭	8	9	前期	測定誤差と統計的処理(1) (確率分布、測定誤差の分布、校正、精度、誤差の3公理)	確率分布を説明できる。測定誤差の分布について説明、計算することができる。測定の精度を評価することができる。	坂倉守昭	10	11	前期	測定誤差と統計的処理(2) (正規分布、分散、標準偏差、標準正規分布)	標準偏差を説明でき、分散、標準偏差を計算できる。	坂倉守昭	12	13	前期
3	前期	SI 組立単位 非 SI 単位 単位の次元	主要な SI 組立単位の定義を説明できる。主要な非 SI 単位の定義を説明できる。	坂倉守昭																																
4					5	前期	測定の種類 (直接測定、間接測定) と方法 (偏位法、零位法、置換法)、誤差の定義と評価、誤差の種類、トレーサビリティ	測定の種類と方法を説明できる。測定誤差の定義と評価について説明できる。測定誤差の種類を挙げて説明できる。	坂倉守昭	6	7	前期	有効数字、計算誤差 (桁落ち誤差、打ち切り誤差、情報落ち誤差、丸め誤差)	有効数字および有効桁数を例を挙げて説明できる。有効数字を考慮した四則演算ができる。計算誤差を説明できる。	坂倉守昭	8	9	前期	測定誤差と統計的処理(1) (確率分布、測定誤差の分布、校正、精度、誤差の3公理)	確率分布を説明できる。測定誤差の分布について説明、計算することができる。測定の精度を評価することができる。	坂倉守昭	10	11	前期	測定誤差と統計的処理(2) (正規分布、分散、標準偏差、標準正規分布)	標準偏差を説明でき、分散、標準偏差を計算できる。	坂倉守昭	12	13	前期	測定誤差と統計的処理(3) (母集団と標本、大数の法則、中心極限定理、標準誤差、誤差の伝搬)	母集団と標本について説明できる。大数の法則、中心極限定理標準偏差を説明できる。標準誤差の計算ができる。誤差の伝搬の計算ができる。	坂倉守昭	14		
5	前期	測定の種類 (直接測定、間接測定) と方法 (偏位法、零位法、置換法)、誤差の定義と評価、誤差の種類、トレーサビリティ	測定の種類と方法を説明できる。測定誤差の定義と評価について説明できる。測定誤差の種類を挙げて説明できる。	坂倉守昭																																
6					7	前期	有効数字、計算誤差 (桁落ち誤差、打ち切り誤差、情報落ち誤差、丸め誤差)	有効数字および有効桁数を例を挙げて説明できる。有効数字を考慮した四則演算ができる。計算誤差を説明できる。	坂倉守昭	8	9	前期	測定誤差と統計的処理(1) (確率分布、測定誤差の分布、校正、精度、誤差の3公理)	確率分布を説明できる。測定誤差の分布について説明、計算することができる。測定の精度を評価することができる。	坂倉守昭	10	11	前期	測定誤差と統計的処理(2) (正規分布、分散、標準偏差、標準正規分布)	標準偏差を説明でき、分散、標準偏差を計算できる。	坂倉守昭	12	13	前期	測定誤差と統計的処理(3) (母集団と標本、大数の法則、中心極限定理、標準誤差、誤差の伝搬)	母集団と標本について説明できる。大数の法則、中心極限定理標準偏差を説明できる。標準誤差の計算ができる。誤差の伝搬の計算ができる。	坂倉守昭	14								
7	前期	有効数字、計算誤差 (桁落ち誤差、打ち切り誤差、情報落ち誤差、丸め誤差)	有効数字および有効桁数を例を挙げて説明できる。有効数字を考慮した四則演算ができる。計算誤差を説明できる。	坂倉守昭																																
8					9	前期	測定誤差と統計的処理(1) (確率分布、測定誤差の分布、校正、精度、誤差の3公理)	確率分布を説明できる。測定誤差の分布について説明、計算することができる。測定の精度を評価することができる。	坂倉守昭	10	11	前期	測定誤差と統計的処理(2) (正規分布、分散、標準偏差、標準正規分布)	標準偏差を説明でき、分散、標準偏差を計算できる。	坂倉守昭	12	13	前期	測定誤差と統計的処理(3) (母集団と標本、大数の法則、中心極限定理、標準誤差、誤差の伝搬)	母集団と標本について説明できる。大数の法則、中心極限定理標準偏差を説明できる。標準誤差の計算ができる。誤差の伝搬の計算ができる。	坂倉守昭	14														
9	前期	測定誤差と統計的処理(1) (確率分布、測定誤差の分布、校正、精度、誤差の3公理)	確率分布を説明できる。測定誤差の分布について説明、計算することができる。測定の精度を評価することができる。	坂倉守昭																																
10					11	前期	測定誤差と統計的処理(2) (正規分布、分散、標準偏差、標準正規分布)	標準偏差を説明でき、分散、標準偏差を計算できる。	坂倉守昭	12	13	前期	測定誤差と統計的処理(3) (母集団と標本、大数の法則、中心極限定理、標準誤差、誤差の伝搬)	母集団と標本について説明できる。大数の法則、中心極限定理標準偏差を説明できる。標準誤差の計算ができる。誤差の伝搬の計算ができる。	坂倉守昭	14																				
11	前期	測定誤差と統計的処理(2) (正規分布、分散、標準偏差、標準正規分布)	標準偏差を説明でき、分散、標準偏差を計算できる。	坂倉守昭																																
12					13	前期	測定誤差と統計的処理(3) (母集団と標本、大数の法則、中心極限定理、標準誤差、誤差の伝搬)	母集団と標本について説明できる。大数の法則、中心極限定理標準偏差を説明できる。標準誤差の計算ができる。誤差の伝搬の計算ができる。	坂倉守昭	14																										
13	前期	測定誤差と統計的処理(3) (母集団と標本、大数の法則、中心極限定理、標準誤差、誤差の伝搬)	母集団と標本について説明できる。大数の法則、中心極限定理標準偏差を説明できる。標準誤差の計算ができる。誤差の伝搬の計算ができる。	坂倉守昭																																
14																																				

15	前期	信号と雑音、S/N比、信号処理(加算平均、移動平均、FFT、フィルタ処理、自己相関関数)	雑音の種類を説明できる。S/N比の計算ができる。加算平均、移動平均、FFT、フィルタ処理、自己相関関数を説明できる。	坂倉守昭
16				
17	前期	演算増幅器の特徴と機能 演算増幅器を使った回路(1) (反転増幅回路、非反転増幅回路、ボルテージフォロウ)	演算増幅器の特徴と機能を挙げることができる。 演算増幅器を使った増幅回路の計算ができる。	坂倉守昭
18				
19	前期	演算増幅器を使った回路(2) (差動増幅回路、加算回路、微分・積分回路、フィルタ回路、電流電圧変換回路、計装アンプ)	演算増幅器を使った回路の説明ができる。 差動増幅回路における同相除去比の計算ができる。	坂倉守昭
20				
21	前期	デジタル信号処理(AD変換、サンプリング定理、量子化誤差、分解能) 画像データ(構成、種類、特徴)	AD変換の過程を説明できる。 画像データの構成・種類・特徴を説明できる。	坂倉守昭
22				
23	前期	トランスデューサ(1) (ひずみゲージ、ピエゾ素子、CdS、フォトダイオード)	ひずみゲージ、ピエゾ素子、CdS、フォトダイオードの構造・機能・用途を説明できる。	坂倉守昭
24				
25	前期	トランスデューサ(2) (サーミスタ、熱電対、各種電極、ホール素子)	サーミスタ、熱電対、各種電極、ホール素子の構造・機能・用途を説明できる。	坂倉守昭
26				
27	前期	生体電気信号、生体計測の用語と分類、生体信号計測機器	生体電気信号の特徴を挙げることができる。生体電気信号を計測するときの注意点を説明できる。	坂倉守昭
28				
29	前期	まとめと期末試験	まとめ	坂倉守昭
30				
成績評価方法		国家試験出題範囲に準じた期末試験を実施し評価する。		
準備学習など		到達目標に掲げた事項は必要最低限の知識である。必ずマスターするように努力すること。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	システム情報処理
担当者	中井 浩司
単位数（時間数）	2単位(30時間)
学習方法	講義（演習）
教科書・参考書	教科書、参考書なし 講義資料、配布資料あり

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床工学技士に必要な情報収集の方法や統計の基礎知識を学習し、数値データ（Excel）の意味を理解する。またそのデータ活用と合わせて、PowerPointを使用したプレゼンテーションを行えることを目的とする。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	9/18	オリエンテーション（授業の目的と到達点）	<ul style="list-style-type: none"> ・医学の発展には科学的根拠が必要であることを説明できる。 ・母集団、標本、平均値、中央値など統計の基礎を学習し、Excelで数値処理とグラフを描くことができる。 	中井 浩司
2		臨床工学技士に必要な統計の基礎知識（1）		
3	9/25	臨床工学技士に必要な統計の基礎知識（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布（正規分布と非正規分布）を学習し理解する。 ・平均値と標準偏差、中央値と四分位範囲を説明できる。 ・2群間の検定、有意差検定を学習し、演習を行う。 ・p値とは何か説明できる。 	中井 浩司
4				
5	10/2	臨床工学技士に必要な統計の基礎知識（3） ※小テスト（1回目）	<ul style="list-style-type: none"> ・対応のある検定、対応のない検定を学習し説明できる。 ・相関係数と回帰分析の結果を用いて相関とは何か説明できる。 	中井 浩司
6				
7	10/9	プレゼンテーションの基礎知識（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションと学会発表の違いを説明できる。 ・データ、文献の収集方法を学習する。 	中井 浩司
8				
9	10/16	プレゼンテーションの基礎知識（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド構成や発表の手順を学習する。 ・構造化抄録、IMRAD形式を学習する。 	中井 浩司
10				
11	10/23	※小テスト（2回目） グループ演習	データを活用し、ExcelやPowerPointでプレゼンテーションの準備をする。	中井 浩司
12				

13	11/6	PowerPoint を使用した発表 (1)	グループで作成したスライドを用い、発表を行う。	中井 浩司
14		PowerPoint を使用した発表 (2)		
15	11/13	PowerPoint を使用した発表 (予備日) ※期末テスト、まとめ		中井 浩司
成績評価方法		授業態度・出席状況 10%、グループ発表 50%、テスト (小テスト含む) 40%を目安として総合的に評価する。		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	臨床工学科・2年次
科目名	生体物性工学
担当者	水野義雄
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	臨床工学技士標準テキスト第4版 金原出版株式会社

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床工学技士国家試験の出題基準に準拠した内容により、専門科目である生体物性の講義を過去の国家試験問題も含め全般的に学び、生体を物性としてとらえたときの特徴を理解し、生体の各種特性についての知識を修得することを目的とする。講義は、「物性に現れる生体の特性」「生体の電気的特性」「生体と電磁界」「生体と放射線」「生体の機械的特性」「生体の流体力学的特性」「生体の熱的特性」「生体の光学的特性」「生体における物質輸送」について、生体としての特性を解説する。この学習により、生体を物性としてとらえた場合の特性を修得するとともに、国家試験に合格することを目的とする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	物性に現れる生体の特性①：生体とエネルギーの作用に関して、細胞または組織レベルにおける全体的な特性を理解する。	生体に与えられるさまざまなエネルギーに対する作用を理解する。さまざまなエネルギーの内容を理解するとともに、生体を構成する階層構造が理解でき、エネルギー作用が生体に与える影響を理解する。	水野義雄
2	通年	物性に現れる生体の特性②：生体とエネルギーの作用に関して、細胞または組織レベルにおける生体組織に固有な特異性の要因を理解する。	生体組織の固有な特異性を、「異方性」「非線形」「周波数依存性」「温度依存性」「継時的変化」「その他の特異性」からとらえ、その内容を理解するとともに、各論への展開の基礎をつかむ。	水野義雄
3	通年	生体の電気現象の基礎：これから学ぶ生体の電気現象を理解するために、生体の電気現象に対する反応を理解する。	「電荷に働く力」「原子の構造」「静電誘導」などを学ぶことより、生体を受ける電気現象と生体内での現象を理解することが出来る。	水野義雄
4	通年	生体の電気的特性①：「受動的電気特性の電気現象」を、生体組織・電気的等価回路から理解する。	「電気的特性からみた生体組織」「生体内の電気的等価回路」を理解し、生体に暴露される電気現象による生体反応を理解する。	水野義雄
5	通年	生体の電気的特性②：「生体の受動的電気特性」を「周波数依存性」「電気伝播」から理解する。	「電気特性の周波数依存」「生体内の電気伝搬」を学ぶことにより、生体内での周波数と伝搬現象の特徴を理解する。	水野義雄
6	通年	生体の電気的特性③：生体の能動的電気特性を「静止膜電位」「活動電位」から理解する。	静止膜電位理解のため、細胞膜の特徴ならびに電気特性を学び、静止膜電位の特徴を理解する。生体が活動するためには「活動電位」が欠かせない。この活動電位の発生機序を理解する。	水野義雄

7	通年	生体の電気的特性④：生体の能動的電気特性を「電流の生体作用」から理解する。	生体の階層構造における電流の細胞や組織への作用について、その特徴を捉えとともに、安全対策について学ぶ。	水野義雄
8	通年	生体と電磁界①：生体が強電界や強磁界に暴露された影響を理解するとともに、「直流電磁界」と生体の関係を理解する。	静電界におかれた生体を受ける影響を理解するとともに、静磁界における影響ならびに磁界への影響を理解する。	水野義雄
9	通年	生体と電磁界②：「低周波電磁界」「高周波および超高周波電磁界」における生体への影響をとらえるとともに、その発生機序に関して学ぶ。	「低周波電磁界」「高周波および超高周波電磁界」における生体内での影響について、磁界内における誘導電流、交流磁界の印加による体内での起電力発生機序を理解する。また、事故防止のための安全対策の内容を理解する。	水野義雄
10	通年	生体と放射線①：放射線の基礎知識を「放射線の種類」から理解する。	放射線の種類と各種放射線の特色を理解し、放射線の危険性を理解する。	水野義雄
11	通年	生体と放射線②：「放射線のエネルギーと線量」「生体の放射線吸収・透過特性」の内容を理解する。	各種放射線の持つエネルギーと、生体組織での吸収透過特性を知ることにより、どのように医療、特に治療に用いられているかを学ぶ。	水野義雄
12	通年	生体と放射線③：「放射線の生体反応と医療応用」について理解する。	放射線の種類ならびに線量を生体に暴露した時、どのような影響・生体反応が発生するかを理解し、放射線による治療内容と安全な照射に関する知識を学ぶ。	水野義雄
13	通年	生体の機械的特性①：これから学ぶ「生体の機械学的特性」の基礎知識である「力学」について、各種力学的パラメータを理解する。	各種力学的パラメータを学ぶことにより、物理の基礎を再確認する。これにより、今後学ぶ力学的特性の内容理解を深めることが出来る。	水野義雄
14	通年	生体の機械的特性②：「生体の機械的静特性」を、「力学的モデル」「生体の力学的モデル」から学び生体の静特性を理解する。	生体の「弾性的性質」「粘弾性モデル」を力学的モデルから理解し、力学的モデルに含まれる各要素を理解する。	水野義雄
15	通年	生体の機械的特性③：生体の力学的動特性を、「筋肉の構造と特性」からその特徴と内容を理解する。	筋の解剖学的構造と筋収縮のメカニズムを学ぶことにより、筋収縮と筋の出力エネルギーについて述べる事が出来る。	水野義雄
16	通年	生体の力学的特性④：生体の動きの発生・伝達システムを「骨と骨格筋の力学的性質」から学び、運動発現の仕組みを理解する。	骨・関節の種類と解剖学的見地を理解し、運動の発現メカニズム、骨と関節の働きについて学び、筋系の力学的応答と伝達を、理解する。	水野義雄
17	通年	生体の音波、超音波特性①：音波・超音波を「波動」としてとらえ超音波]について理解を深める。	波動原理を理解し、生体と音波、超音波の関係を、波動エネルギーと音響インピーダンスから理解を深める。	水野義雄
18	通年	生体の音波・超音波特性②：生体内への音波の伝搬を「生体内での音波の伝播と減衰」「臓器・組織	生体内に暴露された音波・超音波が内部組織に入った時、音波・超音波はどのような伝播と減衰を見せるか、その理由を各種臓	水野義雄

		界面の反射と音響インピーダンス」から原理と特性を理解する。	器の音波・超音波に対する反応特性から理解を深める	
19	通年	生体の音波・超音波特性③：生体に暴露された超音波を「超音波の生体作用と安全限界」から学び、その特性と超音波の生体に対する安全性を理解する。	超音波が暴露された時の生体反応を、熱作用・圧力の変化などから理解するとともに、超音波の医療への応用に関して、作用箇所による反応の違いと安全性について理解を深める。	水野義雄
20	通年	生体の流体力学的特性①：生体の流体力学的特性を学ぶ前に、「血液の成分」「循環」について、その基礎的な仕組みを理解する。	生体内を流れる液体の「血液」について、その成分ならびに駆動システムである「心臓・循環系」に関する基礎知識を深める。	水野義雄
21	通年	生体の流体力学的特性②：生体の流体力学的特性を「流体力学と血液循環」「血液の流れと物性」からそれぞれの特徴を理解する。	血液と循環系を流体力学的にとらえ、その特徴を理解するとともに、血管内を流れる血液の流体力学的特性を理解する。	水野義雄
22	通年	生体の流体力学的特性③：「血液の性質と粘性」から血液成分の血流に伴う特徴などを、流体力学から分析し理解する。	生体を循環する血流に関して、血液の粘性特性、血球と血管壁との間で発生する「ヘマトクリット値と血液粘性」「血球の流れ方」について理解を深める。	水野義雄
23	通年	生体の流体力学的特性④：血液と血管から作りだされる「脈波の伝播と動脈硬化」「脈波伝搬速度PWVを理解する。	血液と血管による弾性体の特徴を理解し、脈波伝搬と血管壁の硬化現象を理解する。また、動脈硬化の指標となるPWVに関し、その原理と所見を理解する。	水野義雄
24	通年	生体の熱的特性①：生体が高温・低温に暴露された時に発生するさまざまな生体现象を理解する。	高温・低温暴露による生体反応を、生体の熱に対する反応や代謝反応から理解するとともに、ハイパーサーミアについて理解を深める。	水野義雄
25	通年	生体の熱的特性②：「熱の移動と温度の変化」に関して、発熱量とそのシステムについて理解を深める、	恒常性の中に「体温の維持」があるが、その発現機構と産熱のシステム、過剰な熱の移動方法を理解する。	水野義雄
26	通年	生体の熱的特性③「体温調節に関係する熱の移動」を、物質代謝の過程で発生するエネルギーによる熱産生、体表からの熱放散システムについて学ぶ。	ホメオスタシスの体温調節機構に伴う産熱ならびに熱放散について、物質代謝過程におけるエネルギーによる産熱のシステムと、組織の熱伝導が、組織を構成する要素により異なることを理解し、熱放散システムについて学ぶ。	水野義雄
27	通年	生体の光学的特性①：「眼球」「皮膚・臓器」「血液」の持つ生体の光吸収特性を理解する。また、太陽光が生体におよぼす影響について理解する。	「光の特性」について理解し、また、組織の持つ光吸収特性が異なる理由、太陽光の中で特に紫外線の種類と生体に与える影響について理解を深める。	水野義雄
28	通年	生体の光学的特性②：レーザー光の種類とその作用、医療への応用を理解する。	レーザー光発生の仕組みと種類、レーザーによる生体への作用、医療に応用する際の安全性について知識を深める。	水野義雄
29	通年	生体における物質輸送：生体における物質輸送を、「細胞膜を介した物質輸送」を中心に知識を深め	生体の物質輸送に関して、細胞膜の役割・構造から受動輸送と能動輸送に分類し、それぞれの特色を学び、物質輸送システムに	水野義雄

		る。	関する知識を深める。	
30	通年	期末考査とまとめ		水野義雄
成績評価方法	<p>期末考査における得点により、評価する。得点は0～100点の範囲とし、60点以上を合格とする。なお、不合格者に対しては再試験を実施する。</p>			
準備学習など	<p>事前に予習をすることと、配布する「生体物性重要事項まとめ」を復習教材として活用すること。期末考査は「生体物性重要事項まとめ」「授業中の指摘箇所・パワーポイント」などから、問題を作成する。</p>			
留意事項				

学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	医工学治療学
担当者	浅井恵美子
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	演習 講義
教科書・参考書	臨床工学技士標準テキスト 第3版増補 金原出版

授業概要と目的
臨床工学分野の機器に関する概論だけでなく、広く医療に係る内容について自己で課題を選択し、専門性を持ち、より深い知識を得るための学習と発表を目的とする。また学習結果を発表する上で、発表までのプロセスやアカデミックな思考面の向上を期待する。なお、臨床工学技士の資格を有する者がその経験を活かし講義を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	全体オリエンテーション	これからの授業の流れを理解する。	浅井恵美子
2		学術研究または論文読み①	学術研究または論文を読み、まとめる。 ディスカッション①	
3	前期	学術研究または論文読み②	学術研究または論文を読み、まとめる。 ディスカッション②	浅井恵美子
4				
5	前期	学術研究または論文読み③	学術研究または論文を読み、まとめる。 ディスカッション③	浅井恵美子
6				
7	前期	学術研究または論文読み④	学術研究または論文を読み、まとめる。 ディスカッション④	浅井恵美子
8				
9	前期	学習研究	インターネットや図書室の書籍などを使用し、文献検索を行う。おおよそのテーマを決定する。	浅井恵美子
10				
11	前期	学習研究	学習研究の方法を調べる。 ディスカッション	浅井恵美子
12				
13	前期	学習研究	学習研究の方法を探る。学習に対して他者と意見交換を行う。	浅井恵美子
14				

15	前期	学習研究	データ分析を行う。実験結果・文献学習から結果を導き、考察を行う。ディスカッション	浅井恵美子
16				
17	前期	学術研究または論文読み⑤	学会参加し、拝聴内容をまとめ、考察を行う。ディスカッション	浅井恵美子
18				
19	前期	学習研究	発表のストーリー展開を組み立て、必要な情報を精査することができる。発表資料の整理をし、要約ポイントを示す。	浅井恵美子
20				
21	前期	学習研究	学習概要・要約集作成のための資料作成を行う。ディスカッション	浅井恵美子
22				
23	前期	発表準備	発表準備を行う。 指定時間内で発表を行うことができるのか確認をし、過不足を調整することができる。 必要に応じ、学内教員が発表リハーサルに対応する。	浅井恵美子
24				
25	前期			
26				
27	前期	学習研究発表 ふりかえり	それぞれが調べた医療機器、医療分野について発表を行う。また発表内容に対し、質疑応答することができる。 学習研究、発表のふりかえりを行う。	浅井恵美子
28				
29				
30				
成績評価方法		学習研究または論文読みのまとめ、ディスカッションなどへの取り組み、学習研究発表の総合評価とする。なお3回の授業遅刻で1回の欠席として扱い、授業への取り組み姿勢に含め評価する。		
準備学習など				
留意事項		授業時間内で完結できるように計画性をもって取り組みましょう。		

学科・年次	臨床工学科 2 年次
科目名	臨床支援技術学Ⅱ
担当者	蓑島靖丈、蜂須賀章友、中村新一、浅井恵美子
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	

授業概要と目的
タスクシフトによる臨床工学技士業務拡大に伴い、追加された業務を主として、係る人体の解剖知識や医療機器の操作や保守、実際の手技まで広く知識を身に着ける。臨床工学技士として病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義や演習を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	ペースメーカーについて	ペースメーカーの適応疾患、機器の構造、設定について理解する。	蓑島 靖丈
2		ペースメーカー業務における臨床工学技士の業務	ペースメカ植込み手術や交換、フォローアップの方法など臨床工学技士が行う業務の実際を理解する。	蓑島 靖丈
3	後期	内視鏡業務について	内視鏡治療や手技、手順、必要な機器について理解する。	蜂須賀章友
4		内視鏡業務における臨床工学技士の業務	内視鏡業務における臨床工学技士の業務の実際を理解する。	蜂須賀章友
5	後期	電気刺激負荷について	体腔内臓器、心・血管カテーテル治療に係る心臓や血管の解剖・走行を理解する。	蓑島 靖丈
6		電氣的負荷装置の操作の実際	電氣的負荷装置の操作に関連する合併症、禁忌、安全管理、トラブル対応について理解する。	蓑島 靖丈
7	後期	臨床工学技士に必要な穿刺の知識	動脈表在化、シャント、その他の血管など穿刺を行う穿刺部位の違いを理解し、臨床工学技士が行える業務について理解する。	中村 新一 浅井恵美子
8		穿刺演習	臨床工学技士が穿刺を行う際の手順、注意点について理解する。	中村 新一 浅井恵美子
成績評価方法	講師ごとの出題するテーマに沿った課題またはレポートによる評価を行う。 授業中の取り組み姿勢を評価に含める。			
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	臨床工学科・2年次
科目名	呼吸療法装置学
担当者	渡邊晴美、花隈淳、見須有祐、浅井恵美子、糟谷豪哲
単位数（時間数）	3単位（90時間）
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	教科書：医歯薬出版 臨床工学講座生体機能代行装置学 呼吸療法装置 追加プリント資料

授業概要と目的
呼吸療法に関わる基礎を理解し、応用できる知識を得て国家試験を含め将来の臨床現場における呼吸不全への広い視野での対応ができるように酸素療法、医療用ガス、高気圧酸素療法、人工呼吸器を使った人工呼吸管理、感染症予防、呼吸モニタ系などについて必要な知識を習得する。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。必要に応じて追加補習を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	呼吸療法総論	呼吸の目的、呼吸療法とは、呼吸療法における臨床工学技士の役割、呼吸療法の心得、呼吸療法の歴史について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
2		呼吸療法で用いられる記号と略号について理解する	呼吸療法に用いられる記号と略語、記号の表現方法、記号・略語と基準値について説明できる	
3	通年	呼吸療法に必要な呼吸生理について理解する	呼吸器の構造（呼吸器官の形成、上気道、下気道、肺の構造）について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
4			呼吸器の構造（肺の清浄化、胸郭、胸腔、縦郭）について説明できる	
5	通年	呼吸療法に必要な呼吸生理について理解する	呼吸器の構造（肺循環）呼吸機能（内呼吸と外呼吸、呼吸運動、呼吸調節）について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
6			呼吸機能（肺胞までのガス移動、肺胞と血液ガス交換と異常、ガス運搬）について説明できる	
7	通年	肺機能の主な検査とその解釈について理解する	呼吸機能（ガス運搬、酸素解離曲線、CO ₂ の運搬）について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
8			呼吸機能検査、気体量の表示、スパイロメトリーと肺気量分画、努力性肺活量とF-V曲線、換気障害の分類、抵抗について説明できる	
9	通年	血液ガス分析データの解釈について理解する	肺コンプライアンス、血液ガスの測定意義、血液ガスとガス交換障害について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
10			酸塩基調節、測定上の注意について説明できる	

11	通年	呼吸不全の定義と診断について理解する	呼吸不全の定義と診断、定義、診断、呼吸不全と内呼吸について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
12			呼吸不全の原因と病態 換気・血流比と肺胞気ガス組成、換気・血流比不均等分布とA-aDO ₂ 、慢性呼吸不全の急性増悪について説明できる	
13	通年	呼吸不全の定義と診断について理解する	呼吸不全を呈する主な疾患 酸素運搬障害と組織の低酸素 ARDS、間質性肺疾患について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
14			慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息について説明できる	
15	通年	呼吸不全の定義と診断について理解する	急性肺血栓塞栓症、神経疾患と筋疾患、心不全について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
16		酸素療法について理解する	酸素療法、酸素療法に関連するガスの供給源、酸素濃縮器 吸着型酸素濃縮器について説明できる	
17	通年	酸素療法について理解する	膜型酸素濃縮器、酸素療法で使用する機器の原理と構造について説明できる	浅井恵美子
18			酸素療法（低圧）技術、安全管理について説明できる	
19	通年	高気圧酸素療法について理解する	高気圧酸素療法の原理、高気圧治療装置について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
20			高気圧酸素治療の適応、高気圧酸素治療の実際、吸入療法装置の構造と原理 ジェットネブライザーについて説明できる	
21	通年	吸入療法、給湿療法について理解する	超音波ネブライザー、吸入療法に用いられるおもな薬剤、吸入療法の安全管理について説明できる	浅井恵美子
22			給湿療法とは、給湿療法装置、給湿療法技術、安全管理について説明できる	
23	通年	人工呼吸療法について理解する	まとめ	渡邊晴美 花隈淳
24			人工呼吸療法 人工呼吸器の基本原理、人工呼吸が及ぼす生体への影響について説明できる	
25	通年	人工呼吸療法について理解する	人工呼吸器の基本構成について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
26			人工呼吸器の換気方式について説明できる	
27	通年	人工呼吸療法について理解する	量規定方式、圧規定方式について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
28			調節換気法 IPPV、CPPV、PEEP、autoPEEP、IRV、EIP について説明できる	
29	通年	人工呼吸療法について理解する	SIMV について説明できる	渡邊晴美 花隈淳

30			PSV BiPAP CPAP BIPAP について説明できる	
31	通年	人工呼吸療法について理解する	APRV、人工呼吸開始の基準について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
32			人工呼吸器の基本設定、肺の保護的設定、設定の変更について説明できる	
33	通年	人工呼吸療法について理解する	人工呼吸器からの離脱、人工呼吸器の保守点検 始業点検について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
34		人工呼吸器の保守点検とトラブル対策について理解する	人工呼吸器の終業点検、定期点検、使用中点検、RST について説明できる	
35	通年	人工呼吸器の保守点検とトラブル対策について理解する	人工呼吸器の警報の原因と対策、用手的人工呼吸装置、気道管理について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
36	通年	人工呼吸器装着中の患者管理のポイントについて理解する	気管吸引について説明できる	糟谷豪哲
37	通年	人工呼吸器装着中の患者管理のポイントについて理解する	気管吸引、循環管理について説明できる	
38	通年		水分と栄養管理、感染管理、VAP、誤嚥、胸部理学療法、精神面の管理について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
39	通年	呼吸管理で用いられるモニタについて理解する	パルスオキシメータについて説明できる	浅井恵美子
40	通年		カプノメータ、カプノグラムとその波形の解釈について説明できる	
41	通年	呼吸管理で用いられるモニタについて理解する	換気力学モニタ、圧・量カーブについて説明できる	渡邊晴美 花隈淳
42	通年	在宅人工呼吸療法について理解する	在宅人工呼吸療法 適応基準、TPPV、NPPV、SAS について説明できる	浅井恵美子
43	通年	特殊な呼吸管理について理解する	乳幼児の人工呼吸療法、高頻度振動換気、一酸化窒素吸入療法について説明できる	渡邊晴美 花隈淳
44	通年	特殊な呼吸管理、人工呼吸中に使用される薬剤について理解する	RTX、ネーザルハイフロー、人工呼吸時に使用される薬剤について説明できる	
45	通年	人工呼吸管理の全体的なまとめとトピックス	まとめ	渡邊晴美 花隈淳
成績評価方法		多肢選択問題 80% 授業への取り組む姿勢 20%		
準備学習など		授業中の内容を十分に理解するよう聴講すれば準備学習は不要。 毎授業の内容を確実に理解すること。不明な点は、その場で質問し先送りにしないこと。		
留意事項		授業の進捗状況に応じて、追加補習を実施します。その場合試験日程が変更になることもあります。		

学科・年次	臨床工学科・2年次
科目名	呼吸療法装置学実習
担当者	沖島正幸 / 渡邊晴美 / 花隈淳 / 浅井恵美子
単位数（時間数）	1単位（45時間）
学習方法	実習
教科書・参考書	教科書：医歯薬出版 臨床工学講座生体機能代行装置学 呼吸療法装置

授業概要と目的
呼吸療法装置学の座学にて得た知識を用いて、実際に人工呼吸器を動作して、その安全管理方法、各部の名称とその使用目的と注意事項、人工呼吸を実施する具体的方法の設定と、その換気による実体験を経験しながら知識・技術を習得する。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	人工呼吸器の全体構成と呼吸回路の組み立てについて理解する	人工呼吸器全体の構成と、駆動源であるホースアッセンブリー、電源関連について関係づける。適確、迅速、清潔による呼吸回路の組み立てを実践できる	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
2				
3	後期	「人工呼吸器回路の各 부품の目的と注意点」について理解する	蛇管、バクテリアフィルター、ウォータートラップ、ネブライザー、Yピース、人工鼻、呼気弁、換気量の使用目的と取り扱い注意点について説明できる。 加温加湿器の使用目的、設定の方法と注意点について実践できる	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
4				
5	後期	「各種換気モードの基礎」について理解する	各換気モードの設定と動作および各波形についての確認が実践できる	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
6				
7	後期	「各種換気モードの基礎」について理解する	各換気モードの設定と動作および各波形についての確認が実践できる	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
8				
9	後期	調節呼吸の設定方法と動作の確認および体感の検証」について理解する	調節呼吸の設定条件に従った操作の実施と体感を経験して仮想標準と比較する	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
10				
11	後期	「補助呼吸の設定方法と動作の確認および体感の検証」について理解する	補助呼吸の設定条件に従った操作の実施と体感を経験して仮想標準と比較する	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
12				
13	後期	「人工呼吸器の安全管理と保守点検」	各種警報装置が作動する原因および患者への影響と対処の方法について関係づける	沖島正幸 渡邊晴美

14				花隈淳 浅井恵美子
15	後期	「人工呼吸器の安全管理と保守点検」	各種警報装置が作動する原因および患者への影響と対処の方法について関係づける	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
16				
17	後期	「ハイフローセラピー」について理解する	人工気道を用いない低侵襲の高流量酸素による人工呼吸療法であり、その構成、特徴、設定の基準と方法、対象疾患や注意点に留意し適正な条件に従った操作の実施と体感を経験して仮想標準と比較する	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
18				
19	後期	「実技試験」	調節呼吸、補助呼吸について適切な設定ができるか人工呼吸器の安全に配慮した操作ができるかについての実技試験を実施する	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
20				
21	後期	「実技試験」	調節呼吸、補助呼吸について適切な設定ができるか人工呼吸器の安全に配慮した操作ができるかについての実技試験を実施する	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
22				
23	後期	「まとめ」	呼吸療法装置の全体総まとめ	沖島正幸 渡邊晴美 花隈淳 浅井恵美子
成績評価方法		実習内容を理解しレポートにまとめること 6回提出 40% 人工呼吸器操作の安全確認および操作基準の実技による試験 40% 授業への取り組む姿勢 20%		
準備学習など		授業外での呼吸療法装置使用、および教員への質問対応も可能であり、疑問点は納得がゆくまで解決しておくこと。 人工呼吸器に何度も触れて、熟練する。また、その裏付けも学習しておくこと。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科 2 学年
科目名	体外循環装置学
担当者	伊藤 嘉延
単位数 (時間数)	3 単位(90 時間)
学習方法	座学
教科書・参考書	「生体機能代行装置学体外循環装置」 医歯薬出版 配布プリント 「人工心肺理論と実際」 名古屋大学出版会

<p>授業概要と目的</p> <p>生体機能代行装置(人工心肺)とその周辺機器の技術について基礎的な知識の習得と原理を理解すると共に、そのために、必要な基礎医用工学を身につけることを目標とする。</p> <p>また、人工心肺装置の安全性や信頼性、使用薬剤や材料の知識、体外循環の適正な操作方法の知識と技術、トラブル時の対応など幅広い内容に加えて、補助循環装置や、カテーテル治療についても知識・技術と応用力を習得する。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。必要に応じて追加補習を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「体外循環ガイダンス」 生体機能代行装置技術学Ⅱを受講するにあたって目標設定の仕方を学ぶ。	「講義の流れ、小テストの説明」 この講義を受講する目標などを確認できる。	伊藤嘉延
2		「開心術ビデオによる説明」 体外循環に必要な用語、器具等を理解する。	「実際の心臓手術のビデオを見て、専門用語、使用する器具等のイメージをつくる」 具体的な専門用語、器具等を言うことができる。	伊藤嘉延
3	通年	「人工心肺装置と臨床工学技士との関わり」 医師の指示のもとに行う生命維持管理装置について理解する。	「臨床工学技士の国家資格の誕生と生命維持管理装置である呼吸、循環、代謝の代行装置の業務との関連について」 業務遂行に必要なチーム医療を説明することができる。	伊藤嘉延
4		「人工心肺の開発の歴史について」 人工心肺装置の試作から、臨床応用に至る歴史について理解する。	「人工心肺装置の歴史の中で、人工肺のディスプレイ化や血液ポンプの研究開発から臨床に至るまで」 開発の歴史を知ることにより、現在の装置や将来の装置等を推測することができる。	伊藤嘉延
5	通年	「人工心肺に必要な工学的知識 1」 質量、体積、リットル、密度、圧力について理解する。	「SI 単位や密度、比重、圧力の求め方や単位の変換が出来るようにする」 臨機応変に対応できる知識、技術を身につける。	伊藤嘉延

6		「人工心肺に必要な工学的知識2」 流体の持つエネルギー、粘性、層流と乱流、キャビテーションについて理解する。	「ベルヌーイの定理、位置エネルギー、サイフォンの原理を理解し、摩擦損失や円管内の流れ、キャビテーションを知る」 最低限必要な工学的センスを身につける。	伊藤嘉延
7	通年	「血液ポンプの種類」 ポンプ形式の違いによる血液ポンプの種類を理解する。	「ローラーポンプと遠心ポンプの形式の違いと種類について」 ポンプの仕組みの違いや名称を説明できる。	伊藤嘉延
8		「血液ポンプの性能」 血液ポンプの原理、特徴、性能について理解する。	「血液適合性、性能、信頼性、保守性、安全性、再現性、滅菌について」 各ポンプの基本的原理と性能比較を説明できる。圧閉度の調整を身につける。	伊藤嘉延
9	通年	「人工肺の変遷、種類」 人工肺の開発からフィルム型、気泡型、膜型人工肺について理解できる。	「ガス交換膜の開発の歴史やフィルム型、気泡型、膜型人工肺のガス交換機能について」 それぞれの人工肺の基本的構造を説明できる。	伊藤嘉延
10		「人工肺に必要な性能や特性」 ガス交換膜に必要な性能や特性について理解できる。	「ガス交換膜の材質および均質膜・多孔質膜・複合膜の気体透過係数と物質移動係数について」 膜型人工肺の特徴・注意点、血液適合性・ガス移動量の評価ができる。	伊藤嘉延
11	通年	「人工心肺回路の構成と周辺機器」 回路構成や装置を構成する機器について理解できる。	「貯血槽の構造、熱交換器、動脈フィルタ、冷温水供給装置、血液濃縮装置、酸素ブレンダについて」 それぞれの構成装置・機器について性能・特徴が説明できる。	伊藤嘉延
12		「人工心肺回路とチューブ(ライン)の種類」 構成機器と回路の接続、チューブ(ライン)の種類が選択できる。	「血液ポンプチューブのサイズ、種類およびガスパーズライン、採血ラインについて」 ポンプチューブの内径サイズ、各ラインの名称を理解できる。	伊藤嘉延
13	通年	「カニューレの挿入と抗凝固法」 カニューレの挿入方法と抗凝固剤、活性化凝固時間について理解できる。	「カニューレの挿入・接続のための血液抗凝固法および活性化凝固時間の測定原理・方法について」 血液抗凝固法に必要な薬剤名、投与量および測定時間の基準値が説明できる。	伊藤嘉延

14		「生体との接続方法」 送血カニューレと送血法、脱血カニューレと脱血について理解できる。	「上行大動脈送血、大腿動脈送血および腋窩動脈送血と落差脱血、ポンプ脱血、陰圧補助脱血について」 各カニューレと送脱血方法を理解し説明ができる。	伊藤嘉延
15	通年	「送血回路、脱血回路」 動脈側送血回路と静脈側脱血回路の役割について理解できる。	「大人と乳幼児に使用する送血・脱血回路(チューブ)の違いやサイズについて」 病態や体表面積の違いによる送血・脱血回路(チューブ)の選択ができる。	伊藤嘉延
16		「ベント回路、吸引回路」 ベントカニューレの挿入部位と吸引方法について理解できる。	「完全体外循環中の心腔内の血液の排出方法や心内還流血の回収について」 心筋の過伸展防止、無血視野の確保、気泡の除去のための挿入部位や回収方法が説明できる。	伊藤嘉延
17	通年	「充填液及び希釈率の計算」 充填液の組成、希釈率の計算ができる。	「充填液に使用する薬剤の種類、回路内充填液からの希釈率の計算について説明ができる」	伊藤嘉延
18		「カニューレの生体との接続方法」について 送血カニューレ、脱血カニューレの接続が理解できる。	「送血カニューレ、脱血カニューレの生体との接続について説明できる」	伊藤嘉延
19	通年	「人工心肺のモニタリング」 人工心肺操作中に必要なモニタを理解できる。	「体外循環操作の安全性を確保するためのモニタの項目について」 人工心肺側5項目、生体側7項目のモニタを覚える	伊藤嘉延
20		「人工心肺のモニタリング」 人工心肺操作中に必要なモニタを理解できる。	「体外循環操作の安全性を確保するためのモニタの項目について」 人工心肺側5項目、生体側7項目のモニタを覚える	伊藤嘉延
21	通年	「人工心肺側モニタ」 温度・送血圧・回路内圧・流量について理解できる。	「送血温、脱血温、体温、送血圧、流量、貯血槽レベル、気泡検知器について」 体外循環中の基準値を言える。	伊藤嘉延

22		「生体側モニタ1」 活性化凝固時間・動脈圧・左房圧 中心静脈圧について理解できる。	「活性化凝固時間・動脈圧・中心静脈圧・ 左房圧について」 体外循環中の基準値を言える。	伊藤嘉延
23	通年	「生体側モニタ2」 心電図・血液ガス・電解質・尿量 について理解できる。	「心電図・血液ガス・電解質・尿量につい て」 体外循環中の基準値を言える。	伊藤嘉延
24		「心筋保護法について」 心筋保護法の歴史や理論、基礎的 臨床的なことが理解できる。	「心筋保護法の発達と手術成績の向上お よび冠動脈の役割について」 心筋保護の目的、種類、注入法を理解でき る。	伊藤嘉延
25	通年	「心筋保護法の概念・組成」 心筋保護法の種類、心筋保護液の 組成が理解できる。	「低温化学的心筋保護法と晶質液性、血液 併用の組成について」 化学的心停止・低温・付加的保護物質を理 解できる。 2種類の心筋保護液の組成を理解できる。	伊藤嘉延
26		「心筋保護法の注入・トラブル」 心筋保護液の注入方法およびト ラブルに対して理解できる。	「大動脈起始部、冠動脈口、冠静脈洞から の注入法およびトラブル対処について」 注入手順、注入量・注入圧、注入時間、注 入温について理解できる。	伊藤嘉延
27		「自己血回収装置と輸血」 体外循環における自己血回収と 輸血について理解できる。	「自己血回収装置の構成や操作方法およ び体外循環に必要な輸血について」 自己血回収装置を組み立てることができる。 輸血の種類について理解できる。	伊藤嘉延
28	通年	開心術ビデオでの手術の流れの 説明。	開心術の流れが理解できる。	伊藤嘉延
29		心筋保護法の小テストと解説	小テストを行うことでその内容がどこま で理解できているかを知る。	伊藤嘉延
30	通年	「人工心肺のまとめ」 人工心肺装置の回路、構成部品 等、操作前までのことが理解でき る。	「回路図に基づき、人工心肺装置の配置、 接続、組み立てができるように学習する」 人工心肺の基本構成要素や配置方法を説 明できる。標準的なセットアップや確認が できる。	伊藤嘉延
31		「人工心肺のまとめ」 人工心肺のモニタ、心筋保護法に ついてのことが理解できる。	必要モニタの種類、役割が理解できる。 心筋保護法の必要薬剤、注入法が理解でき る。	伊藤嘉延

32	通年	「中間テスト」 前期の講義内容に対する試験	「前期講義分の中間テスト」および解説 筆記試験で解答できる。	伊藤嘉延
33		「胸部大動脈手術の体外循環」 一般開心術との違いとその体外 循環法を理解できる。	「大動脈の解剖から体外循環を必要とす る胸部動脈疾患を学び、上行、弓部、下行、 胸腹部大動脈の体外循環の操作法の違い を学ぶ」	
34	通年	「脳分離体外循環」 脳保護のための体外循環法を理解 できる。	「逆行性や分枝送血式やポンプ送血式脳 灌流法を学び、体位、送血部位の違い、循 環停止となるばあいについて学習する」	伊藤嘉延
35		「人工心肺回路図、略語」 人工心肺の回路図および必要な 略語が理解できる。	「人工心肺装置に必要な構成部品を使い、 回路を接続した図面を書き、その中に略語 を記述させる」 人工心肺を構成する回路図を作図するこ とができる。体外循環で必要な略語を説明 できる。	伊藤嘉延
36		「充填液の組成、薬剤量の計算」 人工心肺に必要な薬剤の組成、量 の計算ができる。	「充填液に必要な薬剤の名称と使用する 量を学習し、希釈率や予想 Ht の計算がで きるようにする」 循環血液量、希釈率、予想 Ht の計算がで きる。	伊藤嘉延
37	通年	「人工心肺の操作の実際」 人工心肺回路の選択・組み立て、操 作手順が理解できる。	「体外循環チェックリストに基づき、組み 立て・接続ができていないか、確認できるよ うに学習する」 人工心肺回路の組み立て後、各部の安全点 検ができる。	伊藤嘉延
38	通年	「人工心肺停止後の処理、記録」 人工心肺終了時の処理や記録等 について理解できる。	「人工心肺終了後の感染管理に基づき、使 用回路の回収及び破棄までを学習する。監 視項目やイベントの記録を確認できるよ うにする」 人工心は停止後、感染事故の防止、廃棄が できる。記録内容を確認し保存することが できる。	伊藤嘉延
39		「術後管理、合併症」 手術後の患者管理や合併症につ いて理解できる。	「体外循環に見られる日生理的作用によ る合併症の予防ができ、より安全な術後管 理ができるようにする」 術後患者管理の目標が立てられる。合併症 を予防することができる。	伊藤嘉延

40	通年	「体外循環の病態生理」 人工心肺中の非生理的状態や血行動態について理解できる。	「体外循環の機能、技術、機材上の問題点を生体循環に基づき学習をする」 循環器機能について理解し、この機能を体外循環技術に活かせる。	伊藤嘉延
41		「心臓疾患の病態と手術治療」 心臓の解剖学・生理学的異常と手術適応が理解できる。	「心臓の異常による許容水準の低下や駆出力・量の低下について学び、手術治療の対象になるか判断できるようにする」 体外循環の問題点を生体循環に基づいて検証できる。手術内容を説明することができる。	伊藤嘉延
42	通年	「人工心肺の安全管理、トラブルシューティング」 人工心肺の危険要素について理解できる。	「人工心肺の危険性の高い要素を知り、より安全な管理操作を行うことを学習する」 人工心肺の4つの危険要素に基づく、人工心肺の特殊性、危険性をトラブルシューティングと合わせて説明できる。	伊藤嘉延
43		「人工心肺の安全システム、トラブル対処法」 人工心肺の安全装置、トラブル対処法が理解できる。	「学会勧告の安全装置設基準を学び、より安全なシステムを確立できるようにする」 血液ポンプや回路、材料、制御装置、安全装置を組み合わせた体外循環システムを説明できる。	伊藤嘉延
44	通年	「乳幼児の人工心肺」 乳幼児の特異性を理解し、人工心肺の準備、操作が理解できる。	「乳幼児の特殊性と注意点を理解し、成人との回路構成や充填液の組成や操作について学ぶ」	伊藤嘉延
45	通年	「まとめ・科目試験」および解説後期の講義内容に対する試験	「まとめ・科目試験」および解説筆記試験で解答できる。	伊藤嘉延
成績評価方法		本試験9割(筆記)と小テスト1割とレポート提出により評価、		
準備学習など		準備学習など、学生への伝達すべきことをお書き下さい。		
留意事項		授業の進捗状況に応じて、追加補習を実施します。その場合試験日程が変更になることもあります。		

学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	体外循環装置学 実習
担当者	中前健二、伊藤嘉延
単位数(時間数)	1単位(45時間)
学習方法	実習
教科書・参考書	「生体機能代行装置学体外循環装置」 医歯薬出版 配布プリント 「人工心肺理論と実際」 名古屋大学出版会

<p>授業概要と目的</p> <p>生体機能代行装置(人工心肺)など全ての装置操作にはミスは許されない。実習の臨む前にまずこのことを頭に入れておいて欲しい。逆に言えばこの分野のミスは、学内実習中にしか許されない。ミスをしてその原因を追究することも大切である。人工心肺の回路・構成・操作方法等は、各施設で異なるため、この実習では基本的な理論、技術の習得を目標とする。同時期に学ぶ、生体機能代行装置学Ⅱの講義を関連付けて実習を行う。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「体外循環実習ガイダンス」 生体機能代行装置技術学Ⅱを受講するにあたって目標設定の仕方を学ぶ。	「実習の流れ、実技テストの説明」 この講義を受講する目標などを確認できる。	山田悌士 伊藤嘉延
2		「プレゼンによる開心術の説明」 体外循環に必要な用語、器具等を理解する。	「実際の心臓手術の動画を見て、専門用語、使用する器具等のイメージをつくる」 具体的な専門用語、器具等を言うことができる。	山田悌士 伊藤嘉延
3	後期	「人工心肺回路図、略語について」 人工心肺の回路図および必要な略語が理解できる。	「人工心肺装置に必要な構成部品を使い、回路を接続した図面を書き、その中に略語を記述させる」 人工心肺を構成する回路図を作図することができる。体外循環で必要な略語を説明できる。	山田悌士 伊藤嘉延
4		「人工心肺回路とチューブ(ライン)の種類について」 構成機器と回路の接続、チューブ(ライン)の種類が選択できる。	「血液ポンプチューブのサイズ、種類およびガスパーズライン、採血ラインについて」 ポンプチューブの内径サイズ、各ラインの名称を理解できる。	山田悌士 伊藤嘉延
5	後期	「送血回路、脱血回路」 動脈側送血回路と静脈側脱血回路の役割について理解できる。	「大人と乳幼児に使用する送血・脱血回路(チューブ)の違いやサイズについて」 病態や体表面積の違いによる送血・脱血回路(チューブ)の選択ができる。	山田悌士 伊藤嘉延

6		「ベント回路、吸引回路」 ベントカニューレの挿入部位と吸引方法について理解できる。	「完全体外循環中の心腔内の血液の排出方法や心内還流血の回収について」 心筋の過伸展防止、無血視野の確保、気泡の除去のための挿入部位や回収方法が説明できる。	山田悌士 伊藤嘉延
7	後期	「充填液の組成、薬剤量の計算」 人工心肺に必要な薬剤の組成、量の計算ができる。	「充填液に必要な薬剤の名称と使用する量を学習し、希釈率や予想 Ht の計算ができるようにする」 循環血液量、希釈率、予想 Ht の計算ができる。	山田悌士 伊藤嘉延
8		「人工心肺回路の選択、組立て」 人工心肺の準備の手順が理解できる。	「患者の病態や疾患からプランニングすることを覚え、清潔操作で組み立てることを学習する」 人工心肺のプランの作成及び回路を清潔操作で組み立てられる。	山田悌士 伊藤嘉延
9	後期	「人工心肺回路の選択、組立て」 人工心肺の準備の手順が理解できる。	「患者の病態や疾患からプランニングすることを覚え、清潔操作で組み立てることを学習する」 人工心肺のプランの作成及び回路を清潔操作で組み立てられる。	山田悌士 伊藤嘉延
10		「人工心肺回路の構成と周辺機器」 回路構成や装置を構成する機器について理解できる。	「貯血槽の構造、熱交換器、動脈フィルタ、冷温水供給装置、血液濃縮装置、酸素ブレンダについて」 それぞれの構成装置・機器について性能・特徴が説明できる。	山田悌士 伊藤嘉延
11	後期	「人工心肺の操作の実際」 人工心肺回路の選択・組立て、操作手順が理解できる。	「体外循環チェックリストに基づき、組み立て・接続ができていないか、確認できるように学習する」 人工心肺回路の組み立て後、各部の安全点検ができる。	山田悌士 伊藤嘉延
12		「人工心肺の操作の実際」 人工心肺回路の選択・組立て、操作手順が理解できる。	「体外循環チェックリストに基づき、組み立て・接続ができていないか、確認できるように学習する」 人工心肺回路の組み立て後、各部の安全点検ができる。	山田悌士 伊藤嘉延
13	後期	「人工心肺装置のまとめ」 人工心肺装置の回路、構成部品等、操作までのことが理解できる。	「回路図に基づき、人工心肺装置の配置、接続、組み立てができるように学習する」 人工心肺の基本構成要素や配置方法を説明できる。標準的なセットアップや確認ができる。	山田悌士 伊藤嘉延

14		「人工心肺の安全管理、トラブルシューティング」 人工心肺の危険要素について理解できる。	「人工心肺の危険性の高い要素を知り、より安全な管理操作を行うことを学習する」 人工心肺の4つの危険要素に基づく、人工心肺の特殊性、危険性をトラブルシューティングと合わせて説明できる。	山田悌士 伊藤嘉延
15	後期	「人工心肺の安全システム、トラブル対処法」 人工心肺の安全装置、トラブル対処法が理解できる。	「学会勧告の安全装置設基準を学び、より安全なシステムを確立できるようにする」 血液ポンプや回路、材料、制御装置、安全装置を組み合わせた体外循環システムを説明できる。	山田悌士 伊藤嘉延
16		「自己血回収装置と ECUM について」 体外循環における自己血回収と血液濃縮について理解できる。	「自己血回収装置の構成や操作方法および血液濃縮について学ぶ」 自己血回収装置を組み立てることができる。ECUM の必要性を理解できる。	山田悌士 伊藤嘉延
17	後期	「補助循環とは」 心臓の機能補助、代行を機械的に行う補助循環について理解できる。	「圧補助、流量補助、ガス交換補助の機械的補助循環を学ぶ」 疾患や病態にあった補助循環が選択ができるようにする。	山田悌士 伊藤嘉延
18		「大動脈内バルーンパンピング」 圧補助としての機械的循環補助について理解できる。	「IAB のサイズや容量、駆動装置の操作手順を学び、血行動態的效果に合った設定ができるようにする」	山田悌士 伊藤嘉延
19	後期	「PCPS・ECMO」 流量・呼吸補助として機械的循環補助について理解できる。	「PCPS・ECMO の原理、適応、禁忌と管理を学び、機能障害に陥った生体心・肺が回復できるように装置の操作法を学ぶ」	山田悌士 伊藤嘉延
20		「補助人工心臓、人工血管、人工弁」 不全心に対する機械的補助について理解できる。 人工血管・弁の材質や種類について理解できる。	「圧力補助の心機能補助の限界と流量補助の長時間使用によるガス交換能の限界を知り、補助人工心臓への切り替えを学ぶ。生体材料の種類や安全性、生体適合性について学ぶ」	山田悌士 伊藤嘉延
21	後期	「ペースメーカーの目的、分類」 ペースメーカーの種類、適応について理解する。	「心電図を理解し、その適応と使用するペースメーカーについて学ぶ」 心電図や適応ペースメーカーの種類、リード線について説明できる。	簗島靖丈
22		「ペースメーカー」 ペースメーカーのプログラムについて理解する。	「ペースメーカーの基本構造を理解し、刺激部位とモードについて学ぶ」 ペースメーカーのプログラムの操作を説明できる。	簗島靖丈

23	後期	「まとめ・実技試験」 実習に対しての実技試験	「まとめ・実技試験」 実習に対しての実技試験	山田悌士 伊藤嘉延
成績評価方法		カニューレ、補助循環、人工心肺組立試験 6 割と人工心肺操作 4 割により評価		
準備学習など		準備学習など、学生への伝達すべきことをお書き下さい。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	血液浄化療法装置学
担当者	中村新一
単位数（時間数）	3単位（90時間）
学習方法	座学ならびに演習
教科書・参考書	血液浄化療法パーフェクトマニュアル、学内配布資料

<p>授業概要と目的</p> <p>血液浄化療法は臨床工学技士が一番関わり合いの多い職種である。また非常に医療技術の進歩が目覚ましい分野である。この授業においては血液浄化療法に必要な腎臓の基礎から、最新医療技術まで幅広く学ぶ。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。必要に応じて追加補習を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	透析医療はチーム医療 現在におけるわが国の透析療法 (統計調査より)を理解する。	血液浄化療法に携わる様々な医療従者との 関わりを知り、チーム医療の重要性を知る ことができる。また、最新の統計調査によ りわが国の透析療法の現状を知ることが できる。	中村新一
2				
3	通年	血液透析の概要を理解する。	腎臓の働きを理解し透析療法で何が代行で きるか理解することができる。血液透析療 法と腹膜透析療法の特徴を理解すること ができる。	中村新一
4				
5	通年	ダイアライザ、血液回路の構造を 理解する。	各種ダイアライザや血液回路の各パーツの 名称から構造、役割について知ることが できる。この項目は臨床実習と関連する。	中村新一
6				
7	通年	透析液を組成と使用方法につ いて理解する。	透析液の目的から組成を学び、患者様に適 した透析液の選択方法を知ることが できる。	中村新一
8				
9	通年	透析液の清浄化の具体的事例を 理解する。	透析医学会が示す清浄化の目標レベルの意 味を理解することができる。逆浸透装置に おける各パーツの役割について理解するこ とができる。	中村新一
10				
11	通年	透析供給装置、患者監視装置につ いて理解する。	透析装置のセントラル方式と個人方式の違 いを理解することができる。透析作成方法 の原理や監視機構について理解すること ができる。患者監視装置の監視機構につ いて理解することができる。	中村新一
12				
13	通年	バスキュラーアクセスについて 理解する。	バスキュラーアクセスの種類とその特徴に ついて、また管理方法について知ることが	中村新一

14			できる。	
15	通年	抗凝固剤の特徴と使用方法について理解する。	抗凝固剤の種類やカスケード表を用いた作用原理を知ることができる。また、使用方法や注意事項について知ることができる。	中村新一
16				
17	通年	血液濾過法の種類と使用方法について理解する。	血液濾過、血液透析濾過の治療概要を理解することができる。また、オンラインHDFにおける前置換・後置換のメリットデメリットを理解することができる。	中村新一
18				
19	通年	血液透析における感染対策について理解する。	透析患者様の死因第2位が感染症である。透析患者様の状況を理解し臨床工学技士としての感染症対策の具体的な方法を知ることができる。	中村新一
20				
21	通年	血液透析開始時～終了時の観察とケアのポイントを理解する。	血液透析の設定の理解から入室からの患者観察のポイントについて説明する。除水計算、抗凝固剤の単位計算の方法を理解することができる。	中村新一
22				
23	通年	血液透析開始時～終了時の観察とケアのポイントを理解する。	また、透析中の観察のポイントから透析終了時の手順までを理解することができる。	中村新一
24				
25	通年	透析患者の自己管理指導の方法について理解する。	透析患者さん自身の自宅での自己管理としての血圧測定、体重測定、ブラッドアセス観察の重要性を知ることができる。	中村新一
26				
27	通年	透析中に発症する身体症状トラブルについて原因と対処法について理解する①	血圧低下の原因であるプラズマリフィリングを理解し、透析中における注意事項と対処法について理解することができる。また、透析導入初期にみられる不均衡症候群、アレルギー反応などの原因を知り、対処法について理解することができる。	中村新一
28				
29	通年	透析中に発症する身体症状トラブルについて原因と対処法について理解する②	透析中に想定される、静脈上昇・下降、空気誤入、漏血・出血事故、穿刺ミスなどの原因を知り対処法を理解することができる。	中村新一
30				
31	通年	偶発事故や災害に関するトラブルについて理解する。	透析中に想定される、静脈上昇・下降、空気誤入、漏血・出血事故、穿刺ミスなどの原因を知り対処法を理解することができる。	中村新一
32				
33	通年	血液透析患者の合併症と対応について理解する①	透析患者特有の循環器系合併症、脳血管系合併症を理解することができる。体液貯留によるうっ血性心不全から、透析患者さんの脳血管障害のリスクまで解説する。	中村新一
34				
35	通年	血液透析患者の合併症と対応について理解する②	透析患者さんに特徴的に見られる骨・関節系合併症を理解することができる。腎性骨栄養症の概要から二次副甲状腺機能亢進症までを解説する。	中村新一
36				

37	通年	透析室の検査値の考察について理解する。	血液検査における健常者の正常値を知り、透析患者様の目標値について理解することができる。また、透析効率 Kt/v を理解し臨床現場において活かすことができる。	中村新一
38				
39	通年	急性期の血液浄化療法の選択について理解する。	急性期患者さんの循環動態を理解し、適したカラムの選択、流量の条件設定を理解することができる。	中村新一
40				
41	通年	プラズマ・アフェレシスの選択と方法について理解する。	単純血漿交換療法、二重濾過膜血漿交換療法、血漿吸着療法の回路構成から治療条件の設定までを理解することができる。	中村新一
42				
43	通年	持続携帯式腹膜透析法（CAPD）の特徴を理解する。	腹膜透析療法の統計データをもとに現状と治療の概要について説明をする。臨床工学技士としての関わりについて理解することができる。	中村新一
44				
45	通年	まとめ、期末試験		中村新一
成績評価方法		<p>授業中の姿勢や小テスト（不定期）、中間・期末・学期末試験にて総合評価を行う。 小テスト：中間・期末・学期末試験＝2：8で行い授業中の姿勢も考慮に加える。 また、試験日に欠席した場合は0点評価となるため、授業は毎日出席するよう心がけてください。</p>		
準備学習など		<p>一部内容が実習とも繋がっているため、講義、実習ともに配布された資料や教科書を読んでおくこと。</p>		
留意事項		<p>授業の進捗状況に応じて、追加補習を実施します。その場合試験日程が変更になることもあります。</p>		

学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	血液浄化療法装置学実習
担当者	中村 新一 / 浅井恵美子 / 森實 篤司 / 小池公子
単位数 (時間数)	1 単位 (45 時間)
学習方法	実技
教科書・参考書	血液浄化療法パーフェクトマニュアル

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床工学技士にとって血液浄化療法は生命維持管理装置の中において多くの臨床工学技士が携わることとなる。この実習では血液浄化療法の基本から透析装置管理やトラブルシューティング、栄養管理まで幅広く学ぶ。なお、臨床工学技士及び管理栄養士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	オリエンテーション 血液透析回路と、ダイアライザの構造を理解することができる。	血液透析実技の基本である回路構成(各種パーツとその役割)を理解することができる。この実習で学んだ内容が今後の実習の基本として活かされる。	中村新一 浅井恵美子
2				
3	前期	プライミングの手技を理解し、一連の流れを理解することができる。①	プライミングの目的を理解し、講師の手順通りにプライミングを行い、概要を理解することができる。	中村新一 浅井恵美子
4				
5	前期	プライミングの手技を理解し、一連の流れを理解することができる。②	ある程度の概要を理解した上で、学生個々にプライミングマニュアルを作成し、今後活かすことができる。	中村新一 浅井恵美子
6				
7	前期	実技試験 プライミングテスト	臨床現場で求められている、プライミングの技術水準を確認することができる。	中村新一 浅井恵美子
8				
9	前期	コンソールの仕組みと動作原理(配管系、背圧弁の理解)を理解する。	透析装置の配管図を元に、実際の透析装置を見ることで、全体の流れを理解することができる。	森實篤司 中村新一 浅井恵美子
10				
11	前期	コンソールの仕組みと動作原理(脱気ポンプの理解)を理解する。	透析液に含まれる空気による患者様への影響を理解し、脱気ポンプの構造から役割までを理解することができる。	森實篤司 中村新一 浅井恵美子
12				
13	前期	コンソールの仕組みと動作原理(複式ポンプの理解)を理解する。	複式ポンプは透析液をバランス良くダイアライザに送ることで安全な透析を行うことができる。複式ポンプの構造から役割までを理解することができる。	森實篤司 中村新一 浅井恵美子
14				

15	前期	コンソールの点検方法（バランステストの重要性について）を理解する。	バランステストは密閉系を維持するために重要な点検である。バランステストを通じ故障が起きた時などの患者様への影響や、安全な医療を行うため知識・手技を身につけることができる。	森實篤司 中村新一 浅井恵美子
16				
17	前期	血液浄化療法におけるトラブルシューティングの原因と対処法について理解することができる。	血液透析治療中に発生する様々なトラブルを想定しシミュレーションを行う。実際にトラブルを発生させその原因と対処法について理解することができる。	中村新一 浅井恵美子
18				
19	前期	透析患者さんの食料療法について、目的と方法を理解することができる。	管理栄養士の方を招き、実際の臨床現場行われてる栄養指導の方法を知る。また、透析患者さんは様々な食事制限を行いながら日常生活を行っていることから、実際の透析食をつくり、食事制限の方法と目的を理解する。	中村新一 浅井恵美子 小池公子
20				
21	前期	透析患者さんの食料療法について、目的と方法を理解することができる。	管理栄養士の方を招き、実際の臨床現場行われてる栄養指導の方法を知る。また、透析患者さんは様々な食事制限を行いながら日常生活を行っていることから、実際の透析食をつくり、食事制限の方法と目的を理解する。	中村新一 浅井恵美子 小池公子
22				
23	前期	最終確認テスト（筆記）、まとめ		中村新一
成績評価方法		実習実技（プライミング実技試験、レポート評価含む）に関する内容 6 割。最終確認テスト（筆記）を 4 割として評価。また、臨床実習で求められる人材を目標とするため、実習における礼儀礼節（言葉使い、容姿など）も成績評価（最終総合）に含める。		
準備学習など		一部座学と関連があるため、座学で行った内容の復習ならびに、教科書をしっかりと読んでおくこと。また、レポートの書き方の基本は、1 年次の基礎医学実習で行っているため配布された資料を読んでおくこと。 実習中に理解しきれなかった場合は、授業後などに実習室を開放するため自主学習も積極的に行うこと。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科・2年次
科目名	安全管理学
担当者	森 茂紀
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	臨床工学講座医用機器安全管理学（医歯薬出版）、MEの基礎知識と安全管理（南江堂出版）

授業概要と目的
医療機器の電気的安全、病院設備の電気的安全を基礎から応用まで学習し、ME機器の安全管理技術理論を習得し、臨床工学技士資格及び第2種ME技術実力検定試験の合格をめざす。ハイテク医療を安全の面から支える医療技術者を養成する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	医用機器の電気的安全についての概要を理解する。	発電から、コンセントまでの電気の流れが説明できる。商用として交流を使う意味が説明できる。	森 茂紀
2				
3	前期	電気エネルギーと生体反応について理解する。電気的安全を支える JIS や IEC について概要を理解する。凶記号、警報の意味を理解する。	生体に流れる電流量と生体の反応を説明できる。JIS や IEC はどんな目的で定められているのか説明できる。JIS に定められた凶記号、警報を説明できる。	森 茂紀
4				
5	前期	電撃から患者や操作者を守る手段、許容量について理解する。	クラス分類と型分類を説明できる。型分類の許容値を説明できる。	森 茂紀
6				
7	前期	病院設備について、どのような目的でどのような方法で安全を確保しているのかを理解する。	保護接地の目的と設備を説明できる。非接地配線方式の目的と設備を説明できる。非常電源の目的と設備を説明できる。	森 茂紀
8				
9	前期	接地線の保守点検の方法を理解する。漏れ電流の測定方法、判別方法を理解する。	接地線の測定方法を説明できる。漏れ電流の経路から MD をどのように配置し、測定するのか説明できる。また、測定値が安全であるのかを判別できる。	森 茂紀
10				
11	前期	前回、説明した漏れ電流の測定を実際の器械を用いて測定し、良否を判別する。	接地漏れ電流、接触電流の測定法を説明し、実際に行う事ができる。その数値から聞きの電気的安全性を判別できる。	森 茂紀
12				
13	前期	医療用ガスの基礎知識を理解する。病院の医療ガスの設備を理解できる。またこれまでの授業を振り返り、もう一度理解の確認を行う。	ガスの種類と性質を説明できる。病院の医療ガス設備を説明できる。これまで授業で理解したことを整理し、重要なポイントを説明できる。	森 茂紀
14				

15	前期	試験、説明	森 茂紀
成績評価方法	<p>毎回授業において前回の授業の小テストを行う。特に漏れ電流の経路、許容値については完全に理解できるまで再試験を行う。</p> <p>成績は最終の試験の評価で60%以上を合格とする。</p>		
準備学習など	<p>医療機器の安全管理の重要性を理解し、実際の現場に出た時、安全な医療機器を提供できるように基礎的知識を習得してください。</p>		
留意事項			

学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	病院安全管理学
担当者	中谷 環
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義 or 演習
教科書・参考書	医療安全学 篠原出版

<p>授業概要と目的</p> <p>医療における安全性の配慮のためには、各医学系教育機関の段階で医療安全に対する関心を持つよう医療安全学の習得が必要である。講義では、医療安全に関する基礎を学ぶとともに、臨床工学技士として実際の現場における医療安全の取り組みや問題点を事例、分析方法等を交え理解を深める。実習では実際の臨床で使用されている医療機器を使用したOJTを取り入れ、体感的に医療安全に対する感受性を深める。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	臨床工学技士を含め医療従事者として求められる医療安全に関わる基礎知識を習得する。	医療従事者として、医療安全学が必要な背景を理解するとともに、臨床工学技士として直面するヒューマンエラーについて理解し述べるができる。	中谷 環
2				
3	前期	臨床工学技士が院内組織の一員として医療安全に対し果たす役割について理解する	医療の安全を遂行するために必要なシステム論を理解した上で、医療安全文化を遂行するための報告システムの必要性を理解し述べるができる。	中谷 環
4				
5	前期	医療従事者が直面するエラー並びに有害事象を理解する。	医療安全上最低限必要な倫理と制度を理解し、エラー並びに有害事象への対応について述べるができる。	中谷 環
6				
7	前期	実際の医療機器を操作し、医療安全に対する理解を深める。	医療機器を用いたトラブルシューティングを体験し、医療機器の運用に対する安全管理を理解し述べるができる。	中谷 環
8				
9	前期	医療安全に必要な事例分析手法を理解する。	インシデント、アクシデントを繰り返さないための分析手法を理解し述べるができる。	中谷 環
10				
11	前期	危険予知トレーニングを通じ、医療安全に必要な感受性を深める意味を理解する。	グループワークによる危険予知トレーニング手法が実践でき、必要性につて理解し述べるができる。	中谷 環
12				
13	前期	医療安全に必要なスキルについて理解する。	チーム医療に必要なコミュニケーションスキルを理解し述べるができる。	中谷 環
14				
15	前期	期末試験、まとめ		中谷 環
成績評価方法	国家試験出題範囲に準じた試験問題に加え、医療従事者として医療安全上最低限必要な内容の試験問題を実施し評価する。			
準備学習など	特になし			

留意事項	
学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	呼吸器学
担当者	渡邊晴美
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：病気が見える 呼吸器第2版 メディックメディカ 追加プリント資料

授業概要と目的
臨床工学技士の主要業務の一つに人工呼吸器の操作があり、これは別の講義で生体機能代行装置学Ⅰとして学ぶ。その人工呼吸器を扱う上で呼吸器系の解剖、生理、症候、呼吸不全、疾患などの知識は必要不可欠な項目であり、この講義では、人工呼吸器の操作が的確に判断できるように呼吸器系の知識を修得することを目的にしている。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	臨床工学技士と呼吸器疾患患者とのかかわり方について理解する	気管の構造、肺の構造について説明できる	渡邊晴美
2	前期	人工呼吸業務に必要な呼吸器系の基礎知識について理解する	呼吸器系の構造、嚥下時の働き、気管支の浄化について説明できる	渡邊晴美
3	前期	ガス交換・血液ガス分析・低酸素血症・高二酸化炭素血症について理解する	血液ガス、酸素解離曲線、低酸素血症、高二酸化炭素血症について説明できる	渡邊晴美
4	前期	肺機能に対する臨床工学技士からのアプローチについて理解する	肺機能検査、内呼吸と外呼吸、呼吸中枢、呼吸の調節呼吸運動について説明できる	渡邊晴美
5	前期	肺機能に対する臨床工学技士からのアプローチについて理解する	酸素の運搬、二酸化炭素の運搬について説明できる	渡邊晴美
6	前期	呼吸療法における気道閉塞性肺疾患に対する臨床工学技士からのアプローチについて理解する	慢性閉塞性肺疾患、慢性気管支炎について説明できる	渡邊晴美
7	前期	呼吸療法における気道閉塞性肺疾患に対する臨床工学技士からのアプローチについて理解する	肺気腫、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息、サルコイドーシスについて説明できる	渡邊晴美
8	前期	呼吸療法における拘束性肺疾患に対する臨床工学技士からのアプローチについて理解する	間質性肺炎、肺線維症、肺水腫、ARDS 塵肺、うっ血性肺炎について説明できる	渡邊晴美
9	前期	急性呼吸不全と RST の関りにおける基礎知識について理解する	自然気胸、緊張性気胸、膿胸、結核性胸膜炎について説明できる	渡邊晴美

10	前期	慢性呼吸不全、在宅呼吸療法とRSTの関りにおける基礎知識について理解する	I型呼吸不全、II型呼吸不全、気管支拡張症、無気肺、過換気症候群について説明できる	渡邊晴美
11	前期	肺血管性肺疾患の基礎知識について理解する	肺動脈、肺静脈、気管支動脈、肺血管塞栓症、心原性肺水腫、肺高血圧症、肺性心について説明できる	渡邊晴美
12	前期	呼吸器感染症と臨床工学技士の役割について理解する	かぜ症候群、マイコプラズマ肺炎、インフルエンザ、肺結核、粟粒結核について説明できる	渡邊晴美
13	前期	呼吸器感染症と臨床工学技士の役割について理解する	非結核性抗酸菌症、肺真菌症、アスペルギルス症、肺クリプトコッカス、ニューモシスチス肺炎、肺カンジダ、日和見感染について説明できる	渡邊晴美
14	前期	免疫・アレルギー性肺疾患と呼吸療法について理解する	過敏性肺炎、腫瘍性肺疾患、原発性肺がん、転移性肺がん、縦郭腫瘍について説明できる	渡邊晴美
15	前期	まとめ	全体的な肺疾患の中で、喫煙が原因となる肺の疾患について説明できる	渡邊晴美
成績評価方法		多肢選択問題 80% 授業への取り組む姿勢 20%		
準備学習など		毎授業の内容を確実に理解すること。不明な点は、その場で質問し先送りにしないこと。授業中の内容を十分に理解するよう聴講すれば準備学習は不要。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科 2年次
科目名	循環器学
担当者	加藤忠
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	病気がみえる Vol.2 循環器 第5版 メディックメディア

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床工学技士として活躍するために、循環器の構造と機能について理解し、代表的な循環器疾患について学ぶ。なお、医師として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1～3	前期	「循環器の構造と機能」 一般目標 ・循環器系の構造と機能について理解する	「循環器の構造と機能について理解する」 到達目標 ①心臓の構造・機能が説明出来る ②血管系の構造・機能が説明出来る	加藤忠
4～6	前期	「心電図とその異常」 一般目標 ・心電図に理解し、その異常発生のメカニズムを理解する	「心電図の基礎を理解し、不整脈のメカニズムおよびその治療を理解する」 到達目標 ①心電図について説明出来る。 ②代表的な不整脈についてそのメカニズムが説明できる。 ③代表的な不整脈の治療法を理解する。	加藤忠
7	前期	「動脈硬化」 ・動脈硬化について理解する	「動脈硬化の成り立ちを理解する」 ①脂質代謝が説明できる ②動脈硬化と循環器疾患との関連が説明できる。	加藤忠
8	前期	「急性冠症候群」 ・急性冠症候群について理解する	「急性冠症候群の概念を理解する」 ①冠状動脈について説明できる ②狭心症・心筋梗塞との相互関係が説明できる。	加藤忠
9～10	前期	「心不全」 ・心不全について理解する	「心不全の成り立ちを理解する」 ①慢性心不全の成立と治療の概要が説明出来る ②急性心不全の対処法が説明できる	加藤忠

1 1	前期	「弁膜症と心筋症」 ・弁膜症と心筋症について理解する	「弁膜症と心筋症について理解する」 ①弁膜症について説明出来る ②弁膜症の治療の概要が説明できる ③心筋症について説明できる。	加藤忠
1 2	前期	「血圧」 ・血圧の成り立ちとその異常を理解する	「血圧の異常について理解する」 ①血圧とは何かを説明できる ②高血圧について説明できる ③起立性低血圧について説明できる	加藤忠
1 3	前期	「血管疾患」 ・大動脈、静脈に起因する疾患について理解する	「血管疾患について理解する」 ①大動脈疾患について説明できる ②血栓・塞栓について説明できる ③静脈瘤について説明できる	加藤忠
1 4	前期	「先天性心疾患」 ・先天性心疾患について理解する	「先天性心疾患について理解する」 ①胎児循環が説明できる。 ②非チアノーゼ性心疾患について説明できる ②ファロー四徴症について説明できる	加藤忠
1 5	前期	「まとめ」 ・循環器の構造と機能および疾患の要点を整理する	「循環器のまとめ」 国家試験合格相当の知識を身につける	加藤忠
成績評価方法		科目試験の評価 100%とする。		
準備学習など		循環器学の極一部しか講義できないが、それでも記憶すべきことは膨大な量となる。覚悟して望んで欲しい。十分な予習・復習は必須である。		
留意事項				

学科・年次	臨床工学科、2年次
科目名	滅菌・消毒学
担当者	武田 明
単位数（時間数）	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	臨床工学シリーズ 滅菌消毒学 TKコーポレーション 臨床工学技士標準テキスト第4版 金原出版株式会社

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床工学に必要な滅菌・消毒の原則とその実際を学ぶ。1年次の医用工学概論、2年次の医用機器学概論、人工心肺装置、血液浄化装置、人工呼吸装置、材料工学などの科目と関連があり、3年次の臨床実習では、その知識が重要となる。臨床工学技士国家試験の出題科目であり、第2種ME技術実力検定試験にも出題される。なお、臨床工学技士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	院内感染（病院感染）の重要性について理解する。	院内感染（病院感染）について理解し、院内感染（病院感染）の重要性について述べるができる。	武田 明
2		院内感染関連微生物や院内感染対策の概要の重要性について理解する。	院内感染関連微生物や院内感染対策の概要について理解し、重要性について述べることができる。	武田 明
3	後期	消毒、滅菌の基本的事項、消毒・殺菌・滅菌の違いの重要性について理解する。	消毒、滅菌の基本的事項である消毒・殺菌・滅菌の違いについて理解し、重要性について述べるができる。	武田 明
4	後期	消毒、滅菌の消毒法・煮沸消毒・洗浄消毒・オゾン・紫外線・消毒剤の重要性について理解する。	消毒法・煮沸消毒・洗浄消毒・オゾン・紫外線・消毒剤について理解し、重要性について述べるができる。	武田 明
5	後期	消毒、滅菌の手指消毒・手術野消毒・環境消毒・ガスの重要性について理解する。	消毒、滅菌の手指消毒・手術野消毒・環境消毒・ガスについて理解し、重要性について述べるができる。	武田 明
6	後期	消毒、滅菌の滅菌法・加熱滅菌・ガス滅菌・放射線滅菌・プラズマ滅菌の重要性について理解する。	消毒、滅菌の滅菌法・加熱滅菌・ガス滅菌・放射線滅菌・プラズマ滅菌について理解し、重要性について述べるができる。	武田 明
7	後期	消毒、滅菌のME機器の滅菌・消毒法・医用材料と滅菌・消毒法の重要性について理解する。	ME機器の滅菌・消毒法・医用材料と滅菌・消毒法の重要性について理解し、重要性について述べるができる。	武田 明
8	後期	期末試験、まとめ		武田 明
成績評価方法	小テスト（20%）、定期試験（40%）、授業態度（40%）の総合評価			

準備学習など	1年生から2年生前期までの授業内容を復習し、国家試験出題基準にそつての勉強は事前に行つておくこと。定期的に行う模擬試験が終了後、早急にまとめ理解をしていくこと。
留意事項	

学科・年次	臨床工学科、2年次
科目名	代謝内分泌系
担当者	齋藤研
単位数（時間数）	1単位（15時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護6

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床工学技士としての業務に必要な医学的知識の習得を目的とする。とりわけ、臨床工学技士として必要な代謝内分泌系知識について、臨床工学技士国家試験の出題基準に準拠しつつ、臨床の現場で必要とされる知識も含めた総合的な内容の講義・問題演習を通じて学ぶ。なお、医師として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	臨床工学技士が必要とする代謝内分泌系一般に共通する総論的概念を理解することができる。	臨床工学技士として知る必要がある内分泌の総論的概念を理解することができる。 下垂体に関連する代謝内分泌異常と疾患の関連を理解できる。	齋藤研
2	後期	臨床工学技士が必要とする代謝内分泌系を理解することができる。	副腎に関連する代謝内分泌異常とその疾患の関連を理解できる。	齋藤研
3	後期	臨床工学技士が必要とする代謝内分泌系を理解することができる。	甲状腺に関連する代謝内分泌異常とその疾患の関連を理解できる。	齋藤研
4	後期	臨床工学技士が必要とする代謝内分泌系を理解することができる。	副甲状腺に関連する代謝内分泌異常とその疾患の関連を理解できる。	齋藤研
5	後期	臨床工学技士が必要とする代謝内分泌系を理解することができる。	糖代謝に関連する代謝内分泌異常とその疾患の関連を理解できる。	齋藤研
6	後期	臨床工学技士が必要とする代謝内分泌系を理解することができる。	脂質代謝に関連する代謝内分泌異常とその疾患の関連を理解できる。	齋藤研
7	後期	臨床工学技士が必要とする代謝内分泌系を理解することができる。	尿酸に関連する代謝内分泌異常とその疾患の関連を理解できる。	齋藤研
8	後期	科目試験とまとめ		齋藤研

成績評価方法	定期試験を実施し評価する。
準備学習など	講義レジメをしっかりと復習し，必要な代謝内分泌系の概念をしっかりと理解すること。
留意事項	